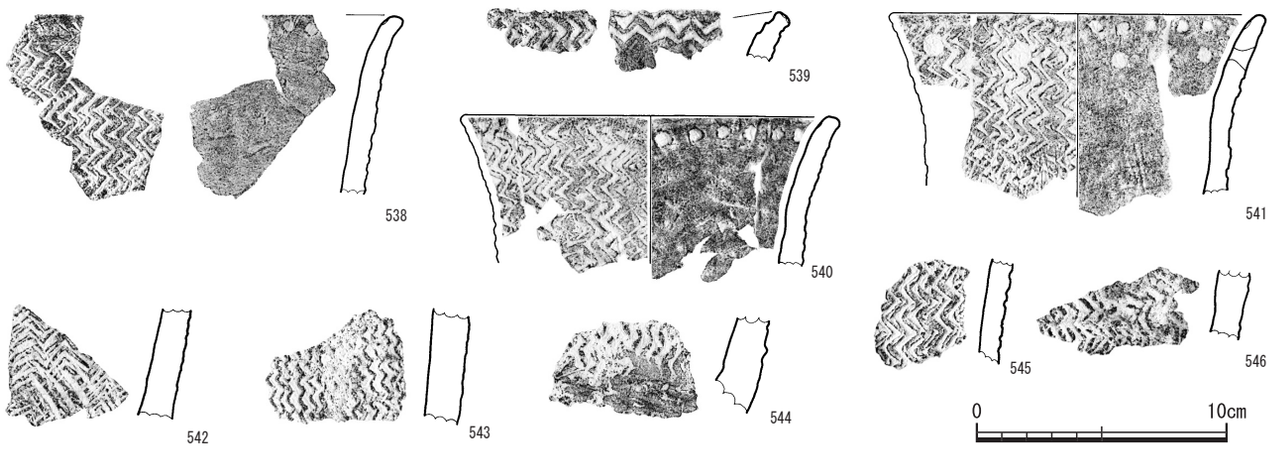
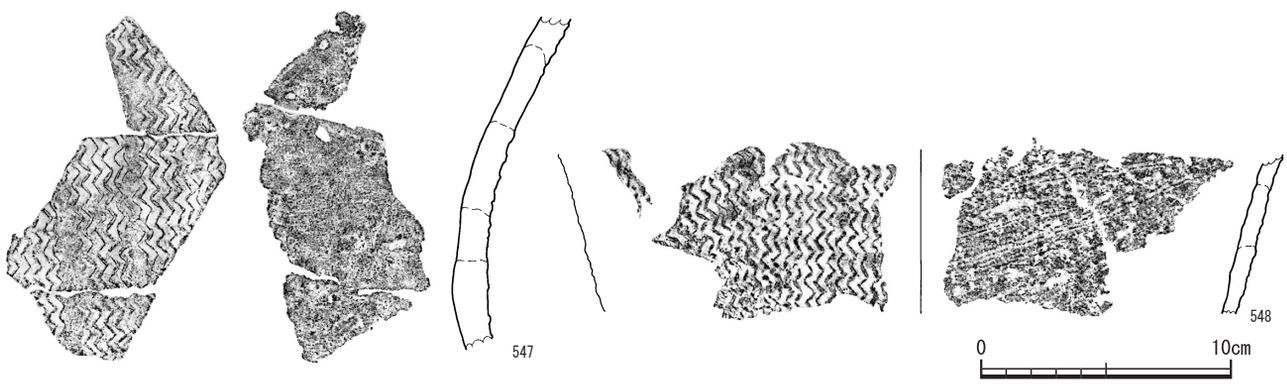
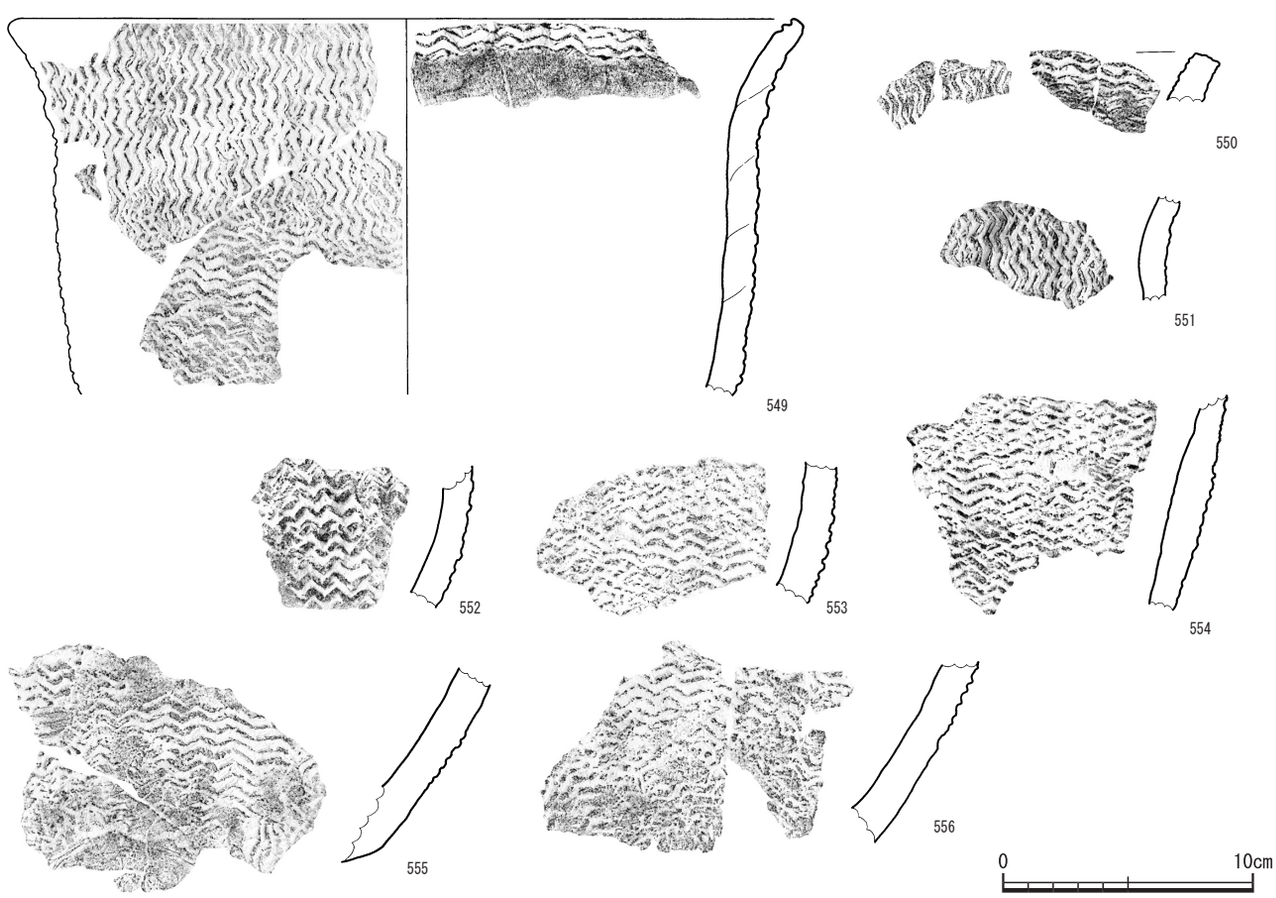


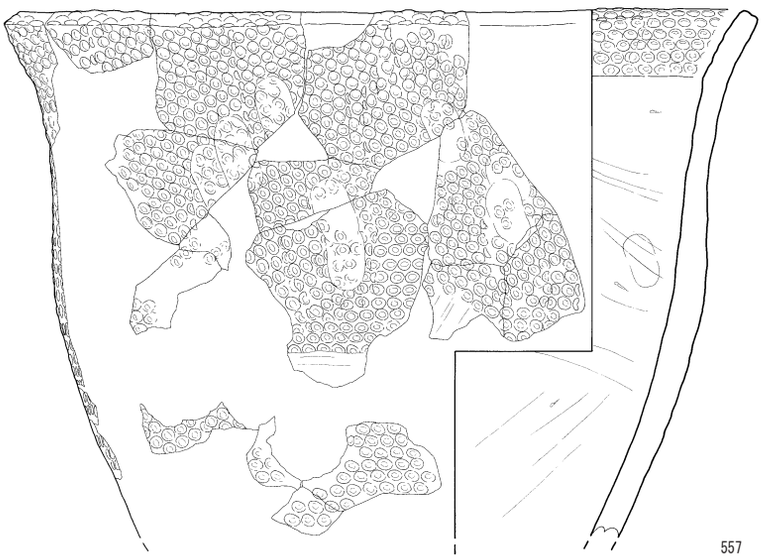
第294図　縄文早期土器実測図（80）（6.122群土器/耳取調査区出土）

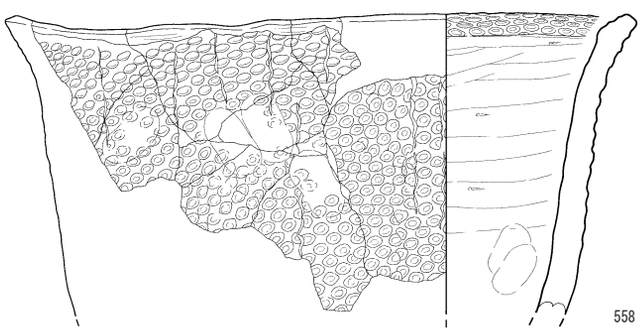


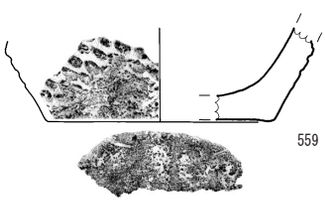
第295図　縄文早期土器実測図（81）（6.122群土器/桐木調査区出土）



第296図　縄文早期土器実測図（82）（6.132群土器/耳取調査区出土）

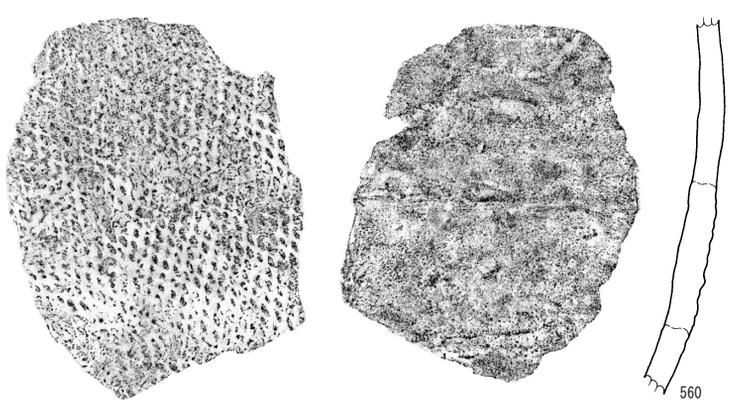






0 10cm

第297図　縄文早期土器実測図（83）（6.141群土器/耳取調査区出土）



0 10cm

第298図　縄文早期土器実測図（84）（6.141群土器/桐木調査区出土）

第81表　縄文早期土器観察表（39）（6群土器－７）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
296	551	6.132	▲0(-/-)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
296	552	6.132	▲13869(F-6/-)	黒,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
296	553	6.132	▲19509(-/-)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	内面スス付着
296	554	6.132	▲0(-/-)	輝,雲,細粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
296	555	6.132	▲9107(J-4/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	底面:横ハケ→ナデ	-
296	556	6.132	▲10723(H-5/Ⅶ) ▲13086(G-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
297	557	6.141	▲9548(F-3/Ⅶ) ▲12640(H-6/Ⅶ) ▲12643(H-6/Ⅶ) ▲12647(H-6/Ⅶ) ▲12658(H-6/Ⅶ) ▲12660(H-6/Ⅶ) ▲12661(H-6/Ⅶ)	黒,輝,角,砂粒	斜ケズリ→横ハケナデ	-	-
297	558	6.141	▲9526(G-3/Ⅶ) ▲19488(-/-)	輝,黒,砂粒,赤粒	横ヘラナデ→ナデ	-	細粒多量
297	559	6.141	▲12695(E-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	底面:丁寧なナデ	-
298	560	6.141	●9802(こ-26/Ⅶ)	角,砂粒	ケズリ→ハケナデ	ナデ	-

第82表　縄文早期土器観察表（40）（6群土器－８）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
302	561	6.151	●2065(さ-33/Ⅶ) ●2372(さ-31/Ⅶ) ●2396(さ-31/Ⅶ) ●50028(さ-31/Ⅶ) ●50030(さ-31/Ⅶ) ●50037(さ-31/Ⅶ)	黒,細粒	横ケズリ→粗いナデ,縦ヘラケズリ→粗いハケナデ	ナデ	-
302	562	6.151	●1766(さ-32/Ⅶ) ●50031(さ-31/Ⅶ)	黒,角,細粒	ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	外面スス付着
302	563	6.151	○37999(B-11/Ⅷ) ○38014(B-11/Ⅷ上)	角,輝,雲	横ハケ→ナデ	ナデ	-
303	564	6.151	▲10713(H-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	-	黒耀石
303	565	6.151	▲847(I-4/Ⅷ)	輝,細粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	黒耀石
303	566	6.151	▲9934(H-3/Ⅶ上)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	細粒多量
303	567	6.151	▲12630(G-5/Ⅷ)	輝,角,雲,砂粒,赤粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	黒耀石,砂粒多量
303	568	6.151	▲9695(G-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石,砂粒多量
303	569	6.151	▲9265(J-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒	斜ハケ→ナデ	-	混和材:角閃石,細粒多量
303	570	6.151	▲8156(H-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	-	砂粒多量

第６群土器第２類土器(分類記号6.2，第312図～第314図625～665)

第６群土器第２類土器に属する土器を41点資料化した。

本類土器は，口縁部内面から胴部内面にかけて緩やかに屈曲し，口縁部外面から胴部外面にかけて屈曲せずに緩やかな外反形態を呈する土器を指標とする。また本類土器は，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類を行うことができず，１種類に限られるという特徴がある。

第６群土器第２類土器第１タイプ土器(分類記号6.21，第312図～第314図625～665)

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口縁部は外反し，胴部中央部でほとんど膨らまずに，ほぼ直線的な胴部形態を呈することが挙げられる。また本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く，形態は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施し，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の押型文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の押型文を１条から数条巡らす土器である。また本タイプ土器には楕円押型文を施す第１種土器(分類記号6.211，第312・313図625～647)と，山形押型文を施す第２種土器(分類記号6.212，第314図648～665)とがある。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具によるハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは粗いナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が観られた。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に黒雲母や輝石で構成される土器と，主に角閃石や輝石で構成される土器とがあることが指摘できる。特に注目できるのは，２点である。

まず，黒雲母を含む土器が量的に多いことと，胎土中に黒雲母を多く含む土器が多く観られ，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

つぎに，粗い粒度の鉱物を含む土器も細かい粒度の鉱物で構成される土器も多いのが特徴である。しかも，胎土中に含まれる量が特に多い土器も多数観られた。また，全体的に胎土が精選される土器が多いことが指摘できる。これらの特徴は，第６群土器第１類土器に比べて対照的な点であり，本類土器の特徴の１つに挙げられる特徴である。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｇ～Ｊ－２～７区周辺に集中していること(第309図・第274図～第278図参照)，桐木調査区内では出土が確認できていないことなどが指摘できる。これらの特徴についても胎土中鉱物についての特徴と同様に，第６群土器第１類土器に比べて対照的な点であり，本類土器の特徴の１つに挙げられる。

第６群土器第３類土器(分類記号6.3，第315図～第317図666～681)

第６群土器第３類土器に属する土器を16点資料化した。

本類土器は，口縁部内面から胴部内面にかけて強く屈曲し，口縁部外面がほぼ直線的形態もしくは緩やかに外に開く形態を呈する土器を指標とする。本類土器は，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性による分類を行うことができず，第２類土器と同様に１種類に限られるという特徴がある。

第６群土器第３類土器第１タイプ土器(分類記号6.31，第315図～第317図666～681)

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口縁端部外面から胴部外面にかけてほぼ直線的な形態，もしくは口縁部外面が緩やかに外に開く形態を呈する特徴がある。また口縁部内面から胴部内面にかけて強く屈曲し，胴部内面は直線的になる特徴が指摘できる。さらに本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く，形態は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の押型文を施し，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の押型文を施すことが指摘できる。さらに口縁部内面には横位方向の押型文を１条から数条巡らす特徴がある。また本タイプ土器では楕円押型文を施す第３種土器(分類記号6.313，第315図666～675)と，山形押型文を施す第４種土器(分類記号6.314，第316・317図676～681)とがある。

調整方法としては，第６群土器第２類土器第１タイプ土器と共通する特徴がある。また，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本タイプ土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母で構成される土器が多く，黒雲母を含む土器は少なかったことが挙げられる。また，細かい粒度の鉱物が多量に含まれる土器が多数観られたこと，全体的に胎土が精選される土器が多いことが指摘できる。

このように本類土器では，器形的特徴や施文的特徴，調整方法については第６群土器第２類土器と共通する点の多いことや，また胎土中鉱物のように第６群土器第２類土器とは若干異なる属性があることが指摘できる。

さて，出土分布図から本タイプに属する土器は主に，耳取調査区北側地区のうち，特に耳取調査区Ｅ～Ｊ－３～６区周辺に集中していること(第310図・第274図～第278図参照)，桐木調査区内では出土が確認できないことが指摘できる。これらのことも第６群土器第２類土器と共通し，注目できる。

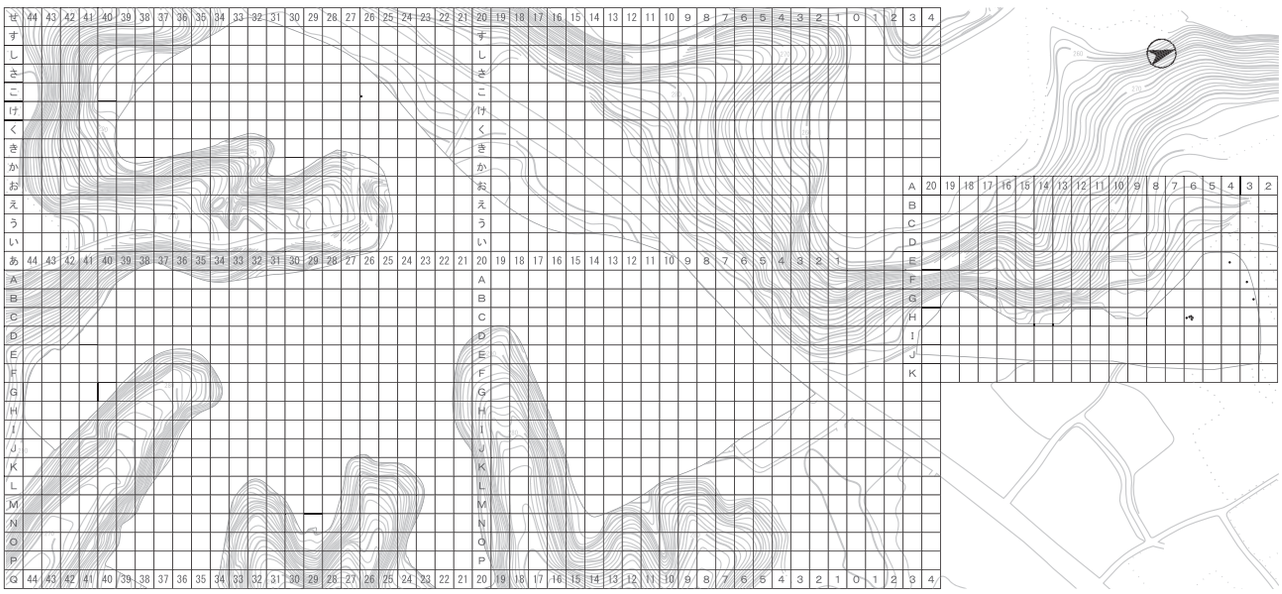
第６群土器第４類土器(分類記号6.4，第322図699～702)

第６群土器第４類土器に属する土器を４点資料化した。

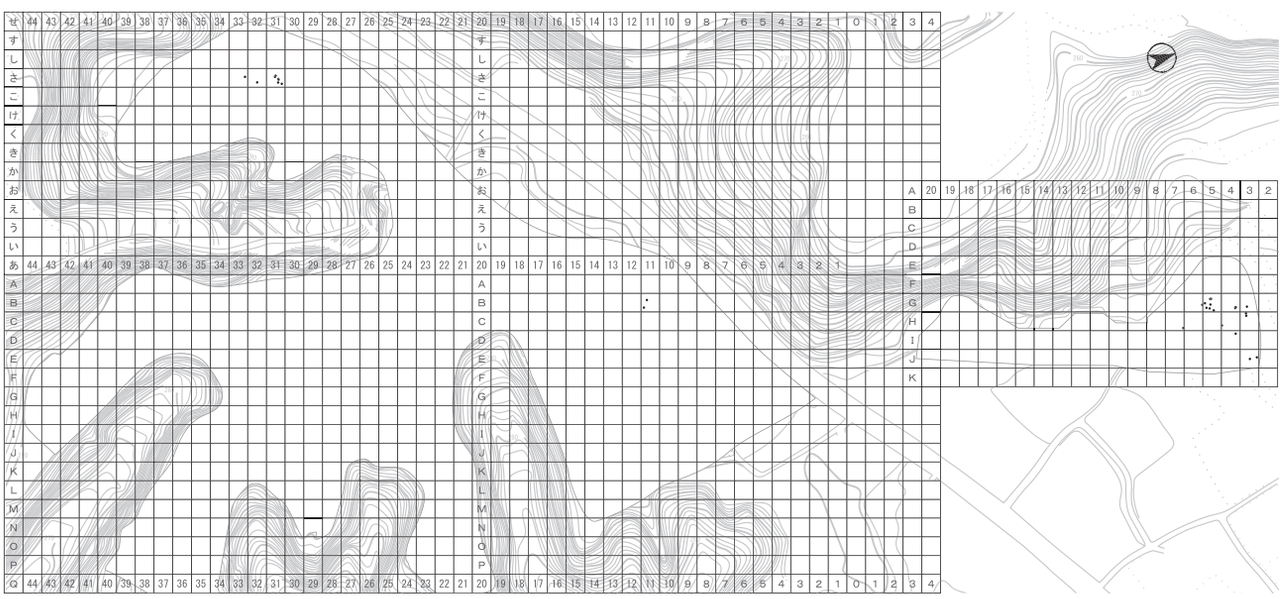
本類土器は，特殊な土器群である。

第322図699,700は小型有文土器である。口縁部から胴部下半部にかけてほぼ直線的な形態を呈し，底部は平底である。施文は外面全面に横位方向の山形押型文。内器面の調整方法はナデ調整。また胎土中鉱物は主に角閃石や輝石，雲母で構成される。特に胎土中に角閃石を多く含む土器が多くあり，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

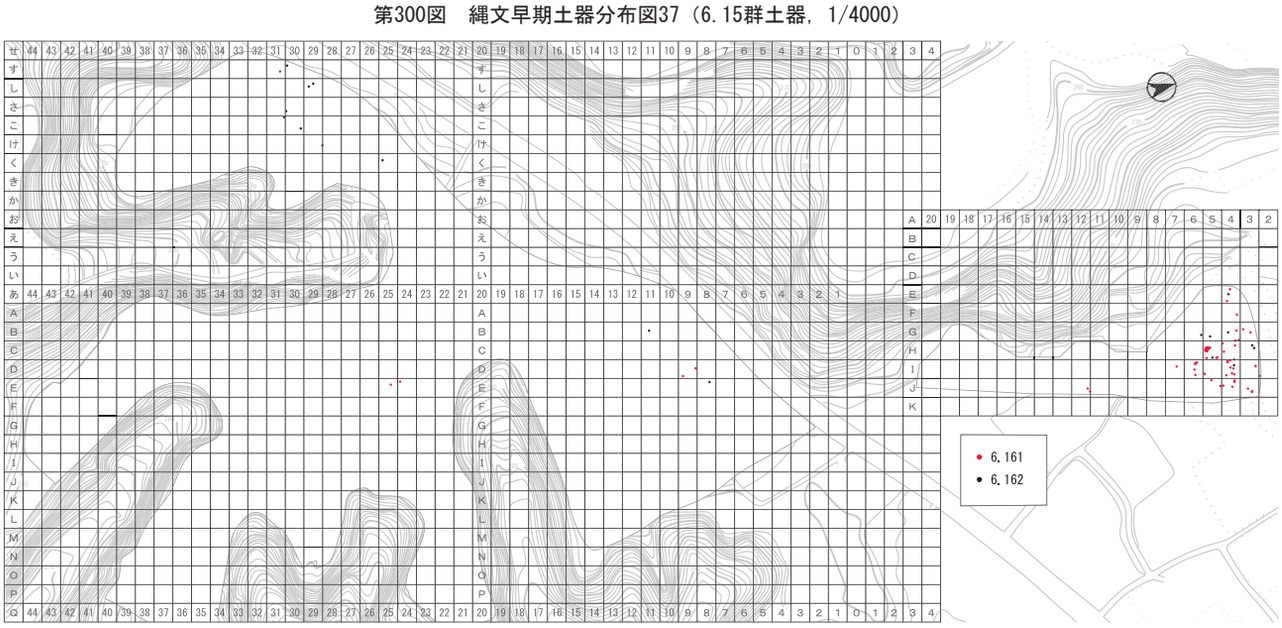
第322図701は，いわゆる「短枝回転文土器」と呼ばれる，木の枝と考えられる工具を回転させ施文した土器の胴部片



第299図　縄文早期土器分布図36（6.14群土器，1/4000）

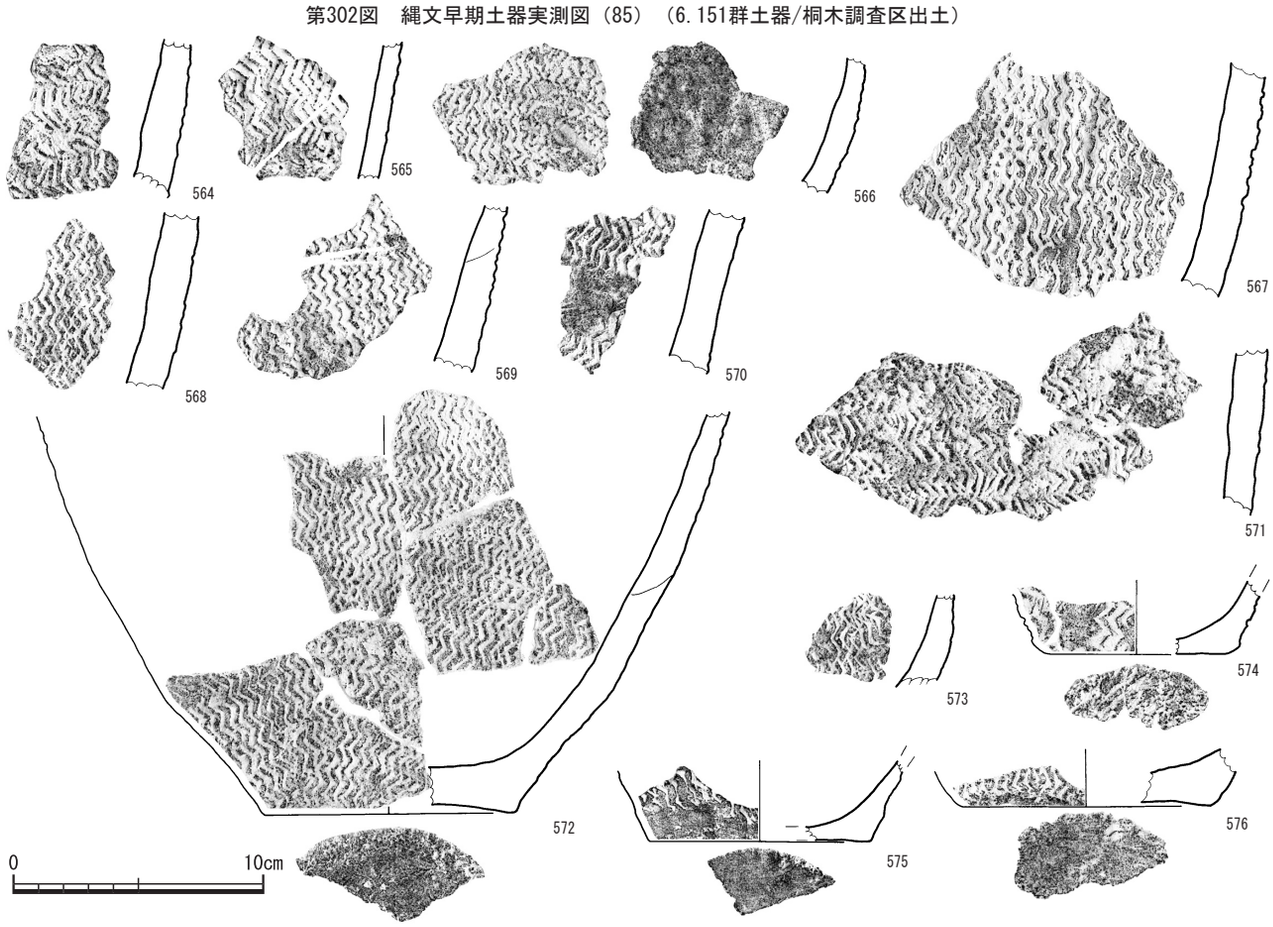


第300図　縄文早期土器分布図37（6.15群土器，1/4000）

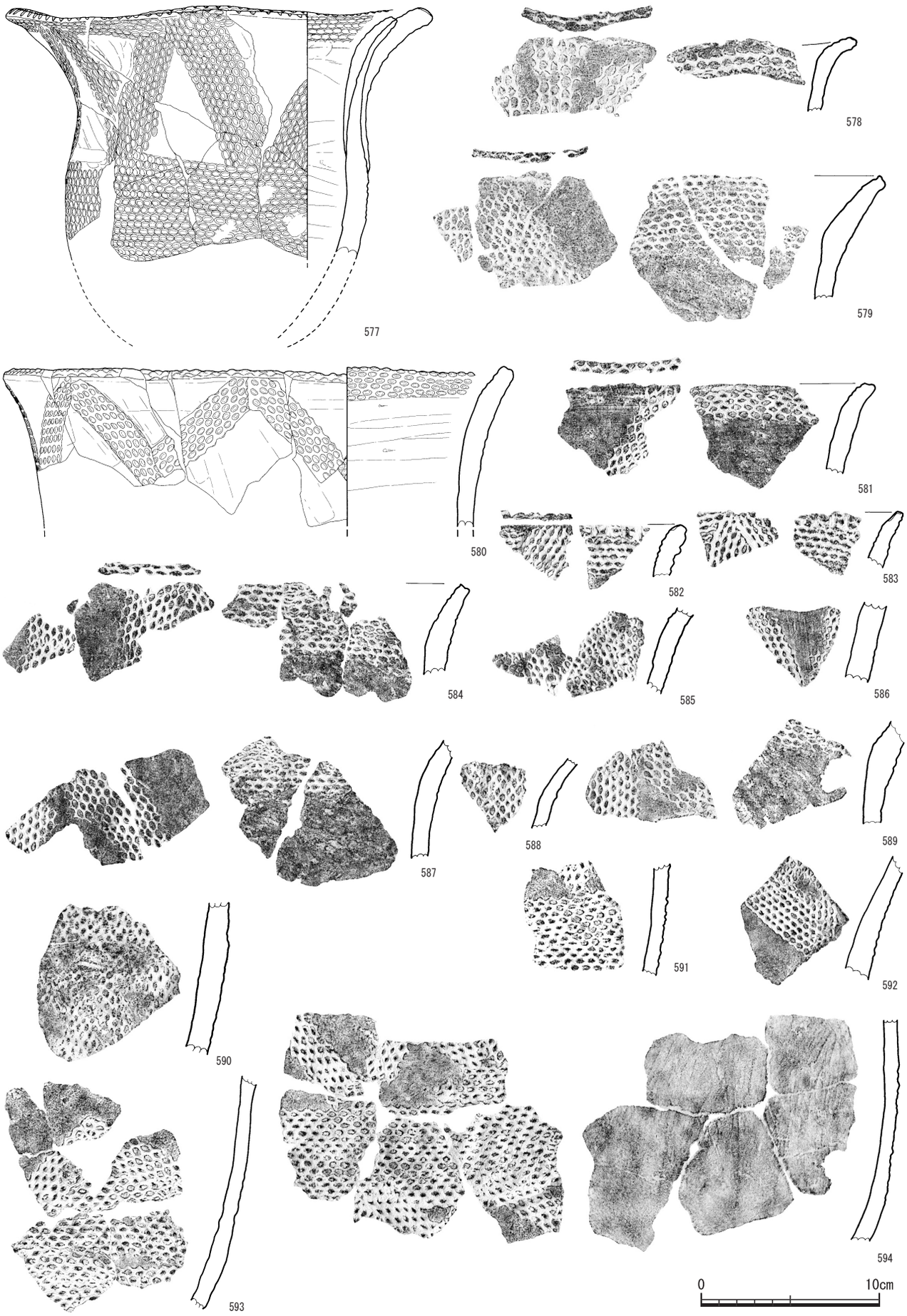


第301図　縄文早期土器分布図38（6.16群土器，1/4000）

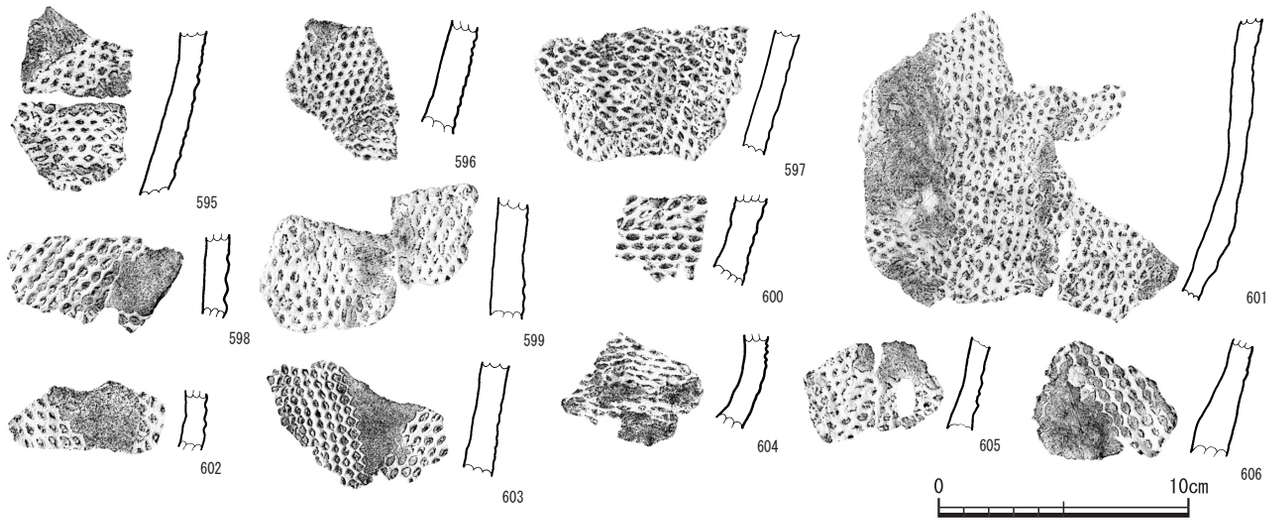
第302図　縄文早期土器実測図（85）（6.151群土器/桐木調査区出土）



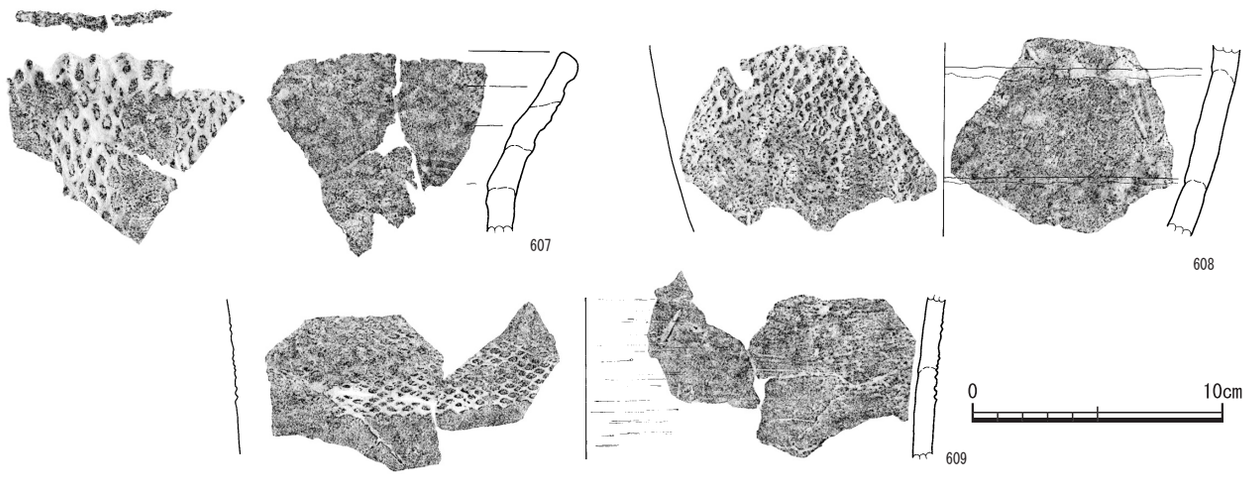
第303図　縄文早期土器実測図（86）（6.151群土器/耳取調査区出土）



第304図　縄文早期土器実測図（87）（6.161群土器/耳取調査区出土）



第305図　縄文早期土器実測図（88）（6.161群土器/耳取調査区出土）



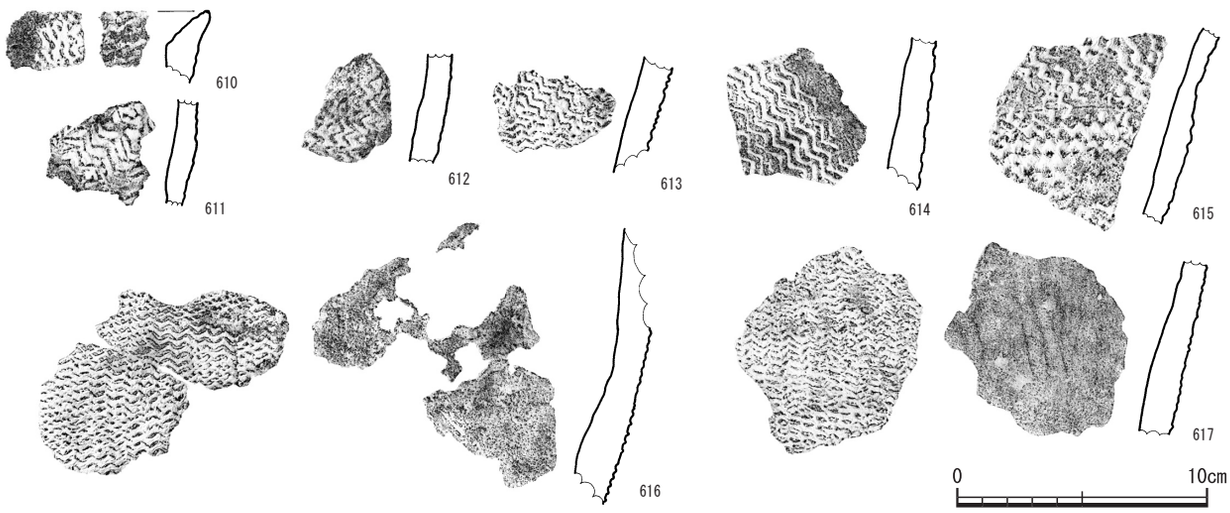
第306図　縄文早期土器実測図（89）（6.161群土器/桐木調査区出土）

第83表　縄文早期土器観察表（41）（6群土器-９）

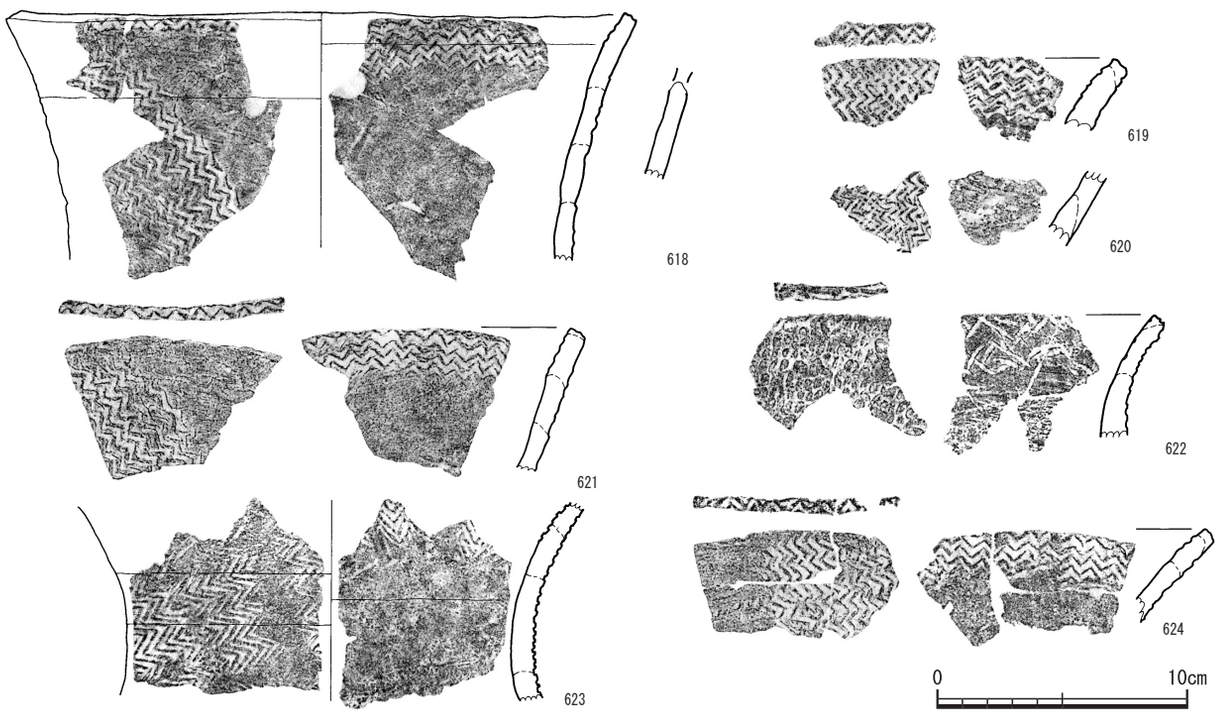
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
303	571	6.151	▲8316(G-4/Ⅶ) ▲9274(J-3/Ⅷ下) ▲9297(G-3/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	ハケ→丁寧なナデ	-	砂粒多量
303	572	6.151	▲7900(G-5/Ⅶ) ▲8695(G-5/Ⅶ) ▲9666(G-5/Ⅶ) ▲9667(G-5/Ⅶ) ▲9705(G-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	縦ケズリ→ナデ	底面:丁寧なナデ	砂粒多量
303	573	6.151	▲7908(G-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量
303	574	6.151	▲10582(G-4/Ⅶ) ▲10588(G-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	底面:工具ナデ	黒曜石,砂粒多量
303	575	6.151	▲12663(H-7/Ⅶ)	黒,輝,細粒	ミガキに近い丁寧なナデ	底面:ミガキに近い丁寧なナデ	混和材:黒雲母
303	576	6.151	▲12634(G-6/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	斜ハケ→ナデ	底面:ハケ→丁寧なナデ	砂粒多量
304	577	6.161	▲9199(J-4/Ⅶ) ▲10284(J-4/Ⅶ) ▲10648(I-4/Ⅶ) ▲10653(I-4/Ⅶ) ▲13224(H-5/Ⅶ) ▲13227(H-5/Ⅶ) ▲13652(I-4/Ⅶ) ▲13658(I-4/Ⅶ) ▲13659(I-4/Ⅶ) ▲19491(-/-) ▲19492(-/-)	輝,角,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
304	578	6.161	▲12841(E-4/Ⅶ)	角,輝,細粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
304	579	6.161	▲9312(I-3/Ⅶ) ▲10566(F-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	斜ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
304	580	6.161	▲10010(I-6/Ⅶ上) ▲10019(I-6/Ⅶ) ▲10760(H-5/Ⅶ) ▲10770(H-5/Ⅶ) ▲10773(H-5/Ⅶ) ▲10774(H-5/Ⅶ) ▲10775(H-5/Ⅶ) ▲10776(H-5/Ⅶ) ▲10779(H-5/Ⅶ) ▲10785(H-5/Ⅶ) ▲10789(H-5/Ⅶ) ▲10793(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
304	581	6.161	▲16018(H-5/Ⅷ)	角,輝,細粒	工具ナデ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	細粒多量
304	582	6.161	▲15986(I-4/Ⅷ)	輝,雲,砂粒	-	-	-

第84表　縄文早期土器観察表（42）（6群土器-10）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
304	583	6.161	▲18600(H-4/Ⅷ)	輝,角,雲,砂粒	-	-	-
304	584	6.161	▲8110(I-3/Ⅶ) ▲9314(I-3/Ⅷ下)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
304	585	6.161	▲9148(J-4/Ⅶ) ▲9157(J-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	縦ハケ→ナデ	-	砂粒多量
304	586	6.161	▲10625(H-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	工具ナデ→丁寧なナデ	ミガキに近い丁寧なナデ	-
304	587	6.161	▲8948(I-4/Ⅶ) ▲10650(I-4/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	斜ヘラナデ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	-
304	588	6.161	▲17814(J-4/Ⅵa)	輝,雲,細粒	丁寧なナデ	-	-
304	589	6.161	▲15973(J-5/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	斜工具ナデ→丁寧なナデ	-	-
304	590	6.161	▲8213(J-3/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
304	591	6.161	▲15935(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	縦ヘラナデ→丁寧なナデ	-	細粒多量
304	592	6.161	▲10983(J-12/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	工具ナデ→丁寧なナデ	ユビナデ	-
304	593	6.161	▲10002(I-6/Ⅶ上) ▲10017(I-6/Ⅶ) ▲10020(I-6/Ⅶ) ▲10022(I-6/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	縦ケズリ→ナデ	ハケ→ユビナデ	-
304	594	6.161	▲10733(H-5/Ⅶ) ▲10772(H-5/Ⅶ) ▲10780(H-5/Ⅶ) ▲12611(H-5/ⅩⅡ) ▲12626(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	縦ケズリ→ナデ,丁寧な縦ナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	595	6.161	▲13719(H-5/Ⅶ) ▲13720(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	丁寧な縦ナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	596	6.161	▲10996(J-12/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	斜,横ハケ→ナデ	-	-
305	597	6.161	▲8236(J-3/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	-
305	598	6.161	▲9436(G-4/Ⅶ)	輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	599	6.161	▲8212(J-3/Ⅶ) ▲8214(J-3/Ⅶ)	黒,輝,砂粒,赤粒	ハケ→ユビナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	600	6.161	▲10169(E-4/Ⅶ上)	輝,砂粒,赤粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	-
305	601	6.161	▲9295(G-3/Ⅶ) ▲9556(G-3/Ⅶ) ▲10604(H-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	縦,斜ケズリ→粗いナデ,斜ハケナデ	-	-
305	602	6.161	▲10106(I-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	丁寧なナデ	ハケ→ユビナデ	-
305	603	6.161	▲9439(G-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ミガキに近い丁寧なナデ	ハケ→ユビナデ	-



第307図　縄文早期土器実測図（90）（6.162群土器/耳取調査区出土）



第308図　縄文早期土器実測図（91）（6.162群土器/桐木調査区出土）

第85表　縄文早期土器観察表（43）（6群土器-11）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
305	604	6.161	▲9382(I-7/VIa)	輝,雲,鑵,砂粒	ハケ→ナデ	ハケ→ユビナデ	細粒多量
305	605	6.161	▲15936(H-5/VII) ▲15937(H-5/VII)	輝,雲,砂粒	縦ケズリ→丁寧なナデ	ユビナデ	-
305	606	6.161	▲8274(G-4/VII)	輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	ユビナデ →丁寧なナデ	-
306	607	6.161	○68181(E-25/VII) ○68219(E-24/VII)	輝	指頭痕→ナデ	-	-
306	608	6.161	●50130(す-31/VII)	角,輝,砂粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	-
306	609	6.161	○37352(D-9/VIII) ○41950(D-9/VIII)	雲,赤粒細粒	横ケズリ→ナデ	-	外面スス付着
307	610	6.162	▲8150(H-3/VII)	輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	ユビナデ	-
307	611	6.162	▲8945(I-4/VIII)	輝,砂粒,赤粒	ミガキに近い丁寧なナデ	-	-
307	612	6.162	▲10177(E-4/VII)	輝,砂粒,赤粒	ハケ→ナデ	-	-
307	613	6.162	▲13155(G-5/VII)	角,輝,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石
307	614	6.162	▲19440(-/-)	角,輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	ユビナデ	細粒多量
307	615	6.162	▲12635(G-6/VII)	角,雲,砂粒	-	-	細粒多量
307	616	6.162	▲9492(G-4/VII) ▲10799(H-5/VII)	角,雲,砂粒,赤粒	丁寧なナデ	-	-
307	617	6.162	▲9947(H-3/VII)	角,雲,砂粒	丁寧なナデ	-	混和材:角閃石,黒曜石,細粒多量
308	618	6.162	●50529(し-29/VII) ●50611(し-29/VII)	輝,細粒	斜ハケ→ナデ	-	-
308	619	6.162	○37190(B-11/VII上)	角,細粒	-	-	-
308	620	6.162	○42537(E-8/VIII)	黒,砂粒	横ケズリ	-	混和材:黒雲母

第86表　縄文早期土器観察表（44）（6群土器-12）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
308	621	6.162	●51179(く-25/VII)	輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
308	622	6.162	●2435(さ-31/VII)	角,細粒	ナデ,横ハケ→粗いナデ	-	-
308	623	6.162	●50121(こ-30/VII) ●50456(け-29/VII)	角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
308	624	6.162	●50102(こ-31/VII) ●50129(す-30/VII)	角,細粒	横ハケ→ナデ	-	内面スス付着
312	625	6.211	▲12761(K-3/VII)	角,輝,砂粒,赤粒	ハケ→ナデ	-	細粒多量
312	626	6.211	▲9514(G-3/VII)	黒,輝,角,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
312	627	6.211	▲18261(J-5/VII下)	黒,輝,角,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
312	628	6.211	▲12613(I-5/XII)	黒,輝,砂粒,赤粒	横ヘラナデ→丁寧なナデ	-	混和材:黒雲母
312	629	6.211	▲10557(G-4/VII)	角,輝,砂粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	630	6.211	▲9420(G-4/VII上)	輝,雲,砂粒,赤粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	631	6.211	▲9425(G-4/VII上)	輝,雲,砂粒,粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	632	6.211	▲9251(J-3/VII)	輝,雲,砂粒,赤粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	633	6.211	▲8867(H-4/VIa)	黒,輝,細粒	ハケ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母
312	634	6.211	▲9094(J-7/VIII横転)	角,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
312	635	6.211	▲10617(H-4/VII)	輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
312	636	6.211	▲10172(E-4/VII)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
312	637	6.211	▲10746(H-5/VII)	輝,角,雲,砂粒	ハケ→ナデ	ハケ→ユビナデ	-

で，器形は胴部中央部でほとんど膨らまずに，胴部下半で緩やかにすぼまる形態を呈している。調整方法としてはケズリ調整の痕跡をとどめ，最終調整としてナデ調整を行うことが挙げられる。胎土中鉱物としては黒雲母と粗い粒度の鉱物で構成される。これらの鉱物は特に胎土中に多く含まれ，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できる。

第322図702は小型無文土器である。口縁部外面が緩やかに外に開き，胴部中央部でほとんど膨らまずに，胴部下半で緩やかにすぼまり，底部は若干の上げ底形態を呈する。

第６群土器第５類土器(分類記号6.5，第321図693～698，第326図～第335図703～738)

第６群土器第５類土器に属する土器を42点資料化した。

本類土器は，胴部中央部で球形状に大きく弯曲する形態を呈する土器を指標とする。さらに器形的特徴としては，口縁形態では平口縁もしくは緩やかな波状口縁を呈し，口縁部は外反し，胴部中央部で若干膨らみ，胴部下半部で緩やかにすぼまり，底部は平底あるいは若干の上げ底形態を呈することが，共通した特徴として指摘できる。

本類に属する土器は，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず，１種類に限られるという特徴が挙げられる。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器(分類記号6.51，第321図693～698，第326図～第335図703～738)

器形的特徴としては，口縁部には大きく緩やかに外反する形態の土器と，短く強く外反する形態の土器とがあるのが特徴である。また，胴部上半部はなで肩形となり，胴部中央部で球形状を呈することが指摘できる。

施文的特徴としては，胴部上半部から胴部下端部にかけて胴部文様帯全面に縦位方向の押型文を施すことが，本タイプ土器分類の最大の指標である。また，本タイプ土器は施文具の違いから下記のように６種に分類できる。

第１種土器は楕円押型を施文具とする土器である。

第２種土器は撚糸を施文具とする土器である。

第３種土器は網目撚糸を施文具とする土器である。

第４種土器は山形押型を施文具とする土器である。

第５種土器は縄を施文具とする土器である。

第６種土器は変形撚糸を施文具とする土器である。

以下，種ごとに詳述していく。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第１種土器(分類記号6.511，第321図693～698)

本種土器は，全体形態がうかがえる資料が少ないために，器形的特徴など判明しない土器群である。

本種土器では径の大きさの違いから，中型土器(第321図693～695)，小型土器(第321図696)，特殊小型土器(第321図697,698)に形式分類ができそうであるが，詳細は不明である。

施文的特徴としては胴部上半部から胴部下端部まで胴部文様帯全面に，楕円押型文を縦位方向に施す特徴がある。

調整方法としては，最終調整としてナデ調整を行うことが挙げられる。また，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石を含む土器と，主に黒雲母を含む土器とが挙げられる。また細かい粒度の鉱物を含む土器と，粗い粒度の鉱物を含む土器とがある。

さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区け～さ-26～31区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｄ-22区とで部分的に出土していることが指摘できる(第323図・第274図～第278図参照)。

ここで注目できるのは，桐木調査区西側地区と南側地区とで部分的に出土するという特徴は，第６群土器第５類土器第１タイプ土器では，特に第１種土器の他には第５種土器および第６種土器にも共通してみられる特徴である。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第２種土器(分類記号6.512，第326図703～707)

器形的特徴としては，口縁部には短く強く外反する形態の土器(第326図703,704)と，大きく緩やかに外反する形態の土器(第326図705)とがあるのが特徴である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には文様を施さず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の撚糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面には横位方向の撚糸文を数条巡らす土器(第326図705)と，口縁部内面を無文にする土器(第326図703,704)とがある。

調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることを指摘できる。また，直前調整としては木製工具によるハケ調整や，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や粗い粒度の鉱物で構成される土器が多く観察でき，また黒雲母を含む土器も観られたことが挙げられる。

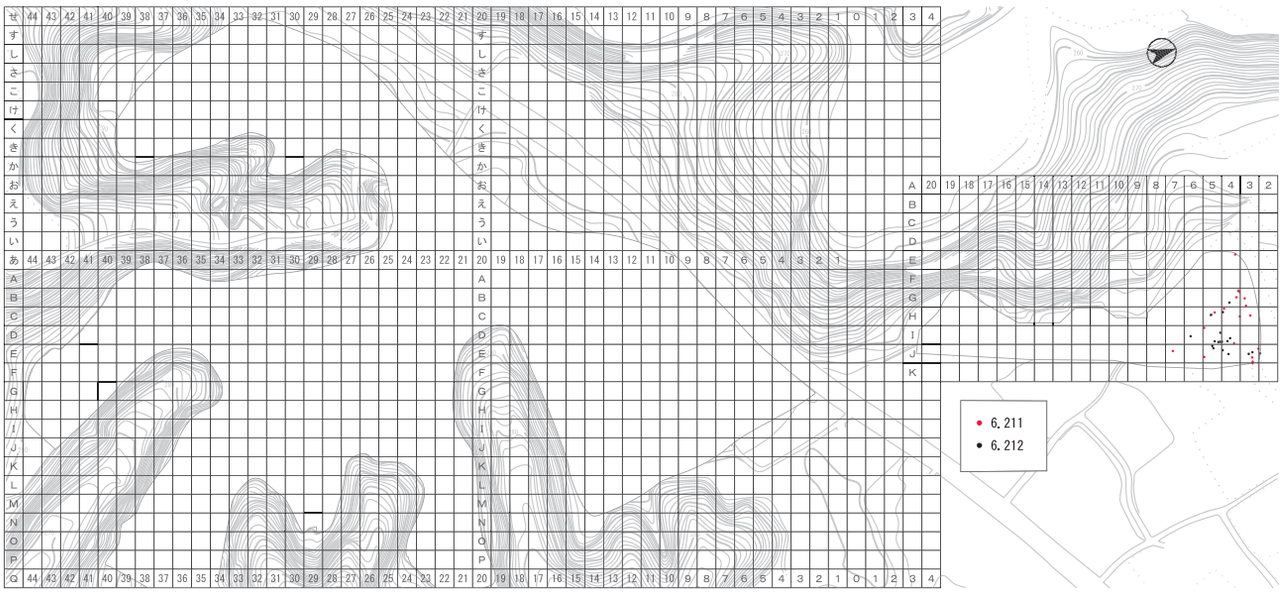
さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区さ・し-29～32区周辺に集中していることが指摘できる(第324図・第274図～第278図参照)。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第３種土器(分類記号6.513，第327図708～711)

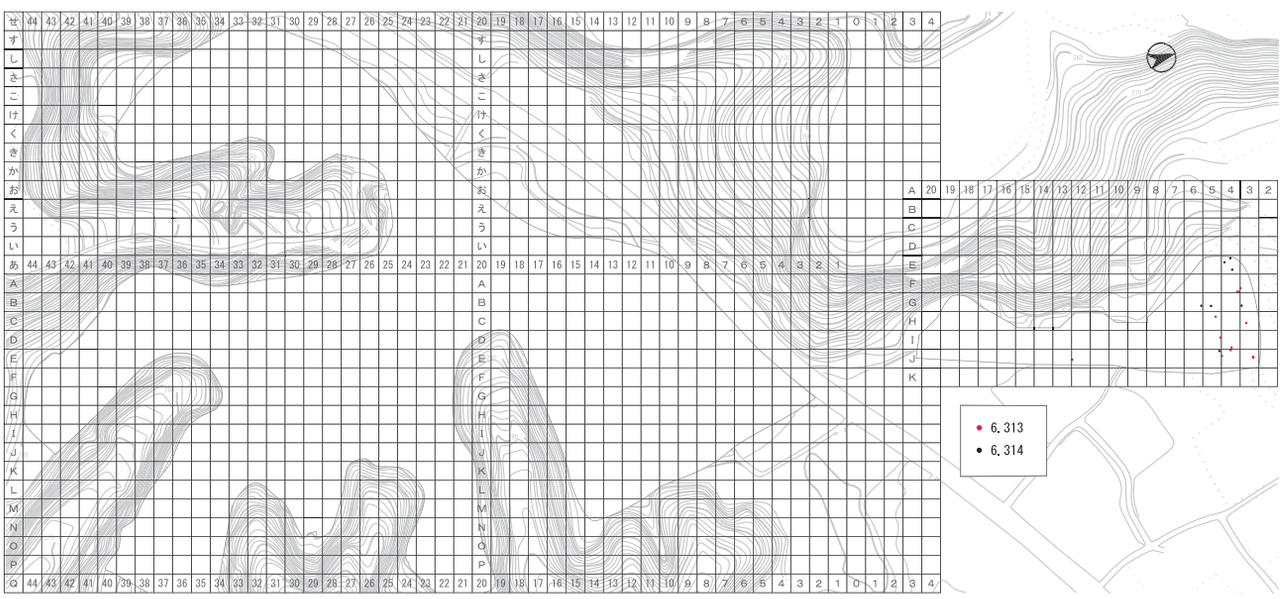
器形的特徴としては，口縁部は緩やかに外反し，胴部は緩やかに底部へ移行するのが特徴である。底部は平底となる特徴がある。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には文様を施さず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の網目撚糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の網目撚糸文を１条巡らすのが特徴である。

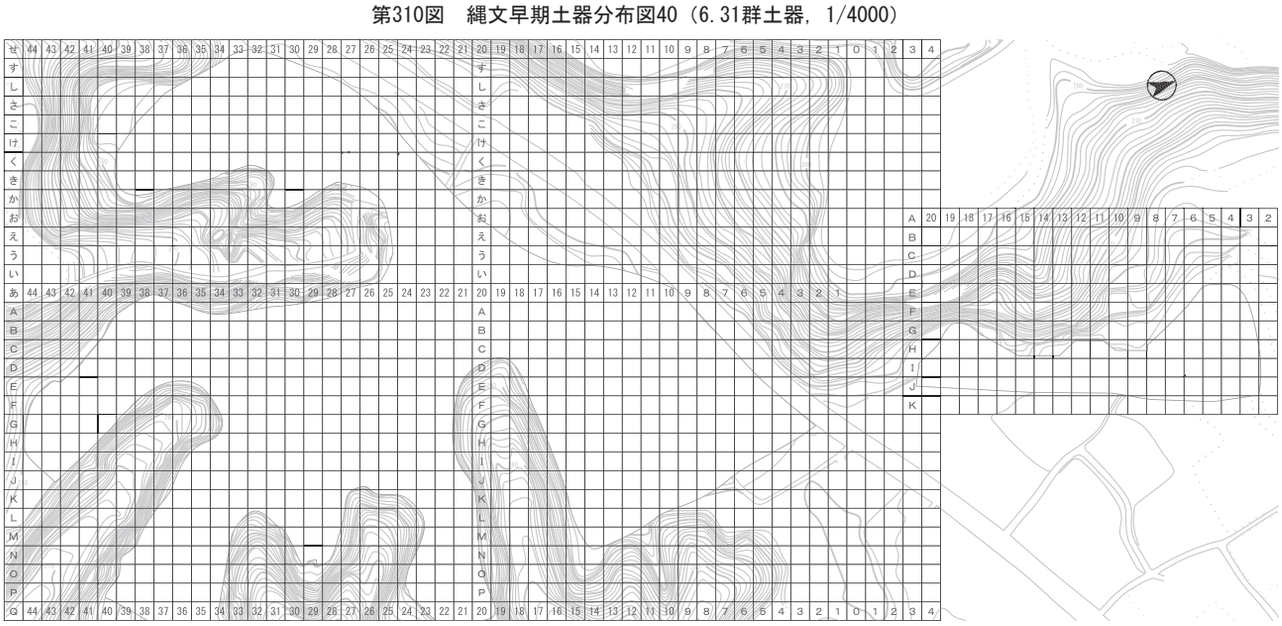
ここで注目できるのは，第327図709である。この土器は胴部下半部の土器片であり，土器片上端部には接合痕が観察で



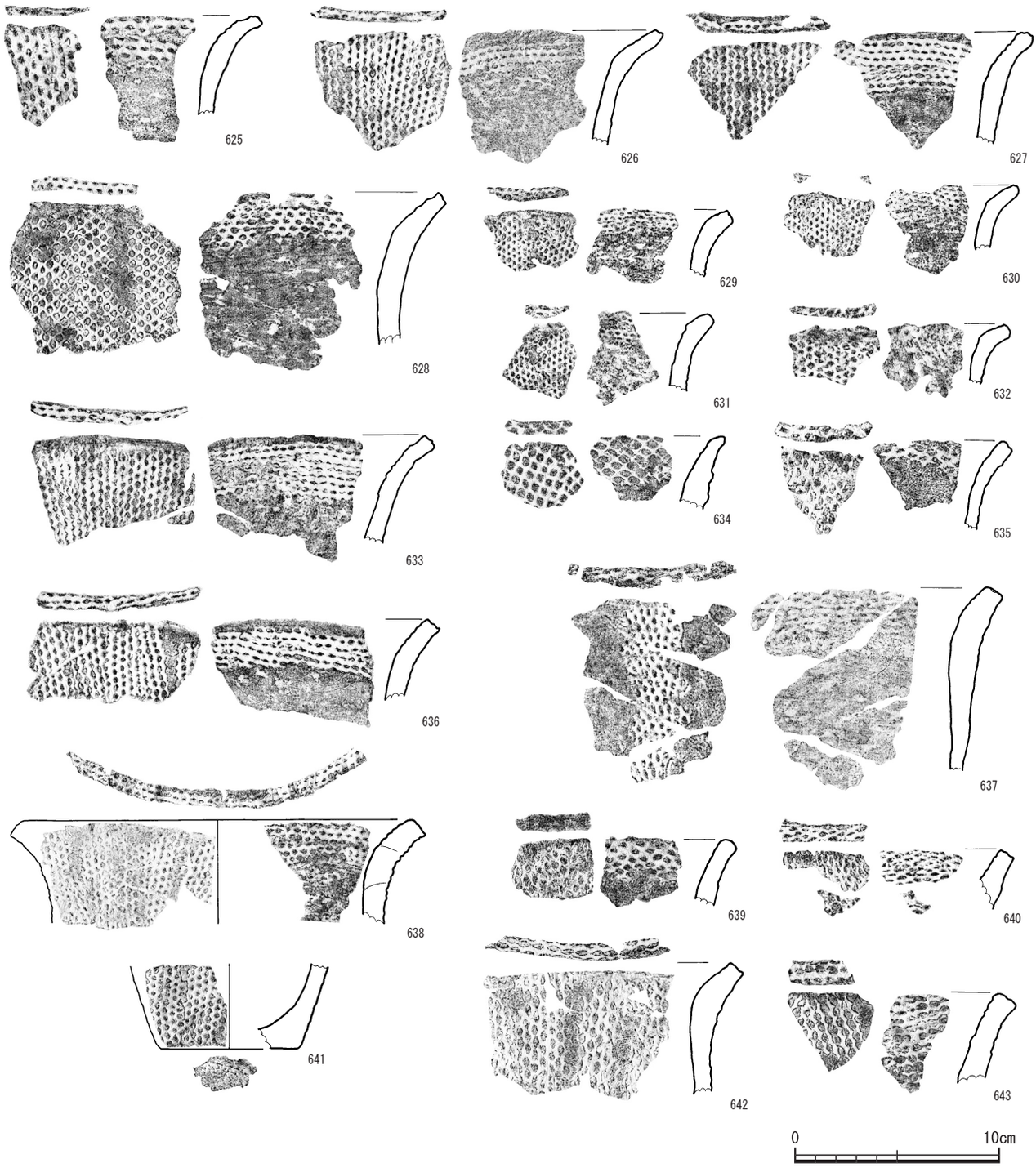
第309図　縄文早期土器分布図39（6.21群土器，1/4000）



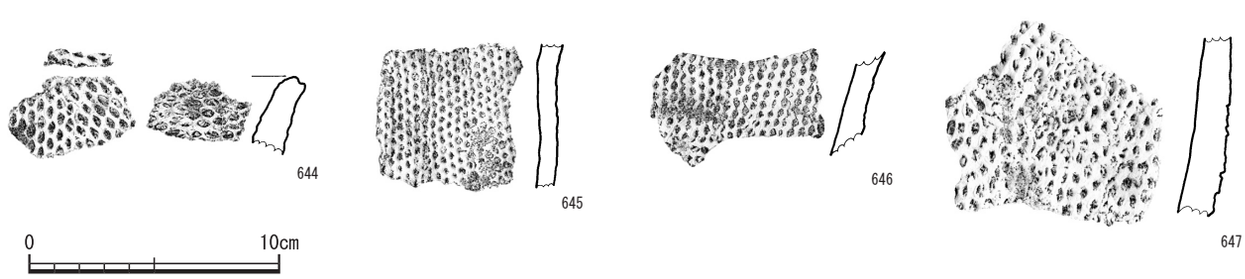
第310図　縄文早期土器分布図40（6.31群土器，1/4000）



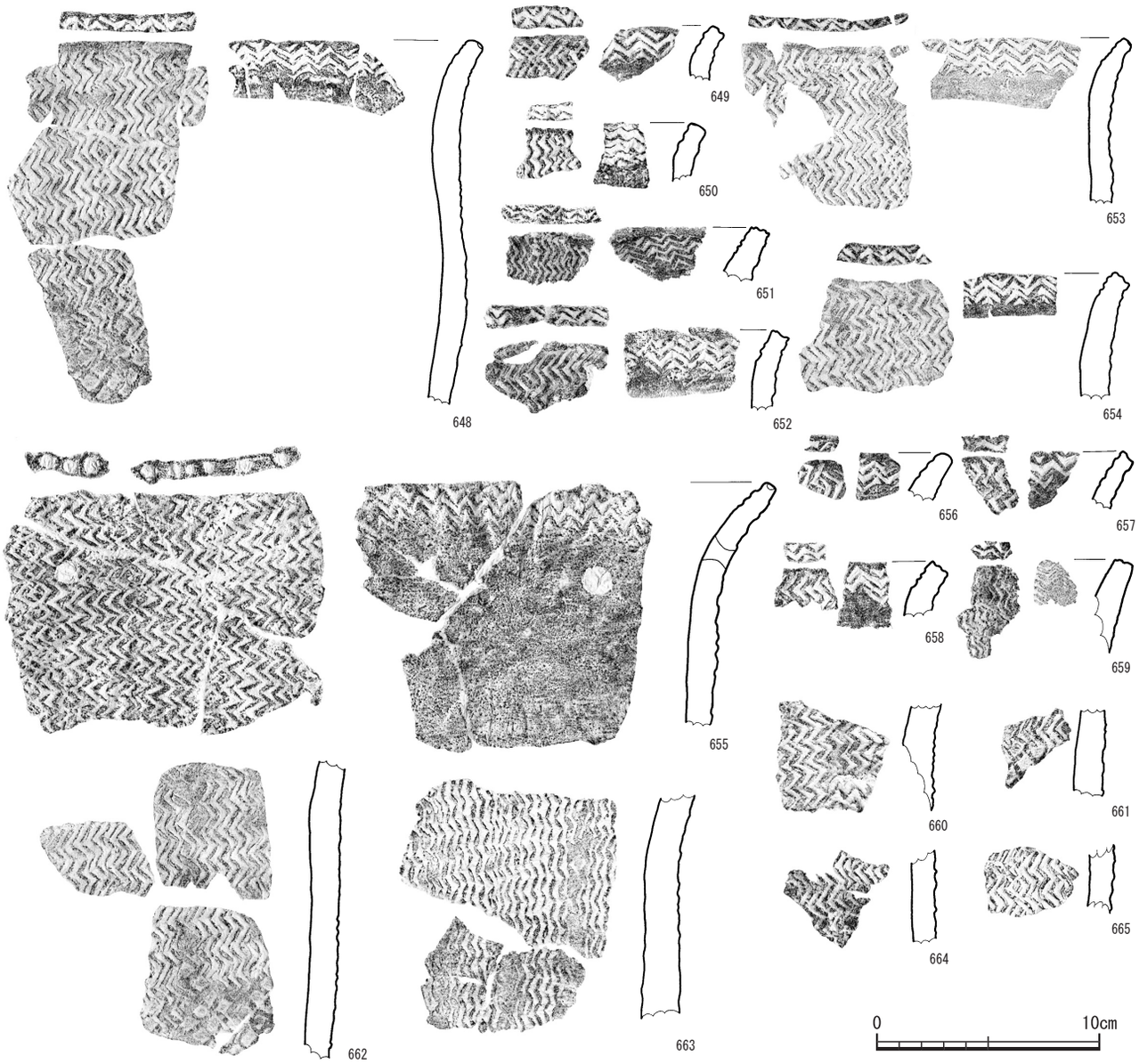
第311図　縄文早期土器分布図41（6.4群土器，1/4000）



第312図　縄文早期土器実測図（92）（6.211群土器/耳取調査区出土）



第313図　縄文早期土器実測図（93）（6.211群土器/耳取調査区出土）



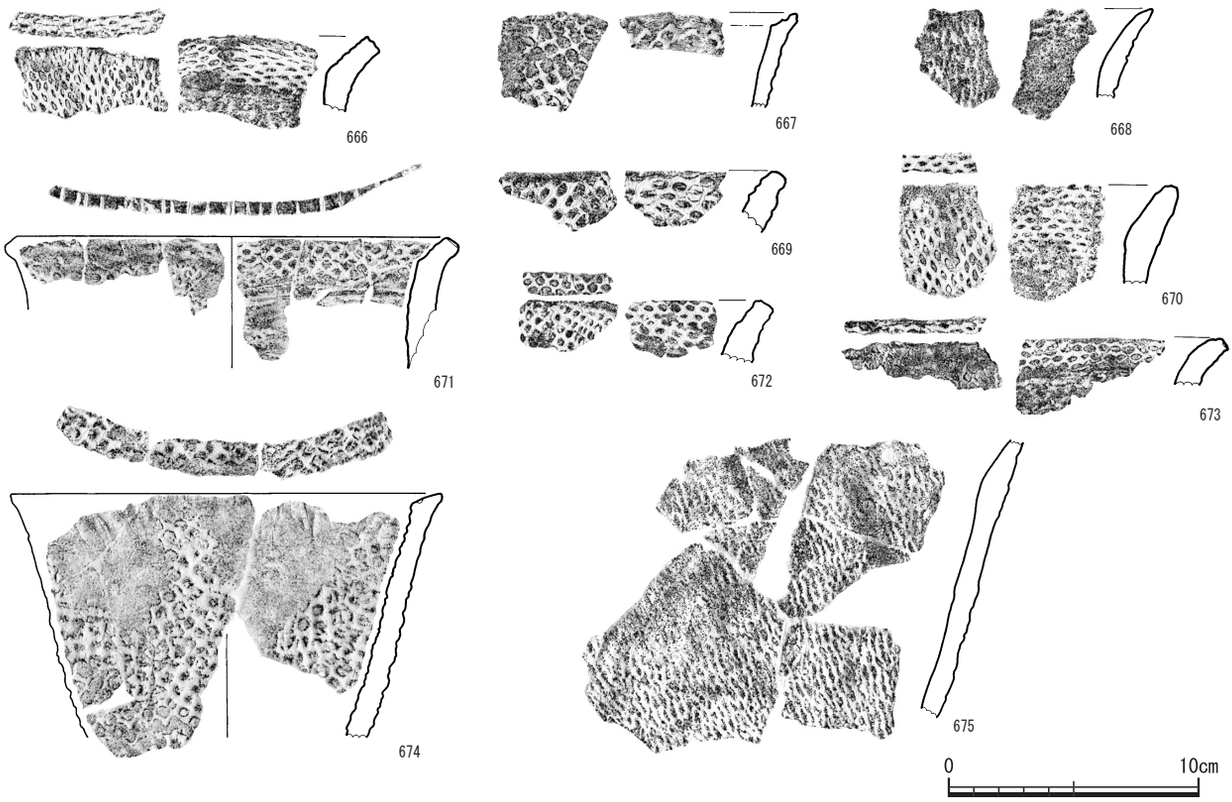
第314図　縄文早期土器実測図（94）（6.212群土器/耳取調査区出土）

第87表　縄文早期土器観察表（45）（6群土器-13）

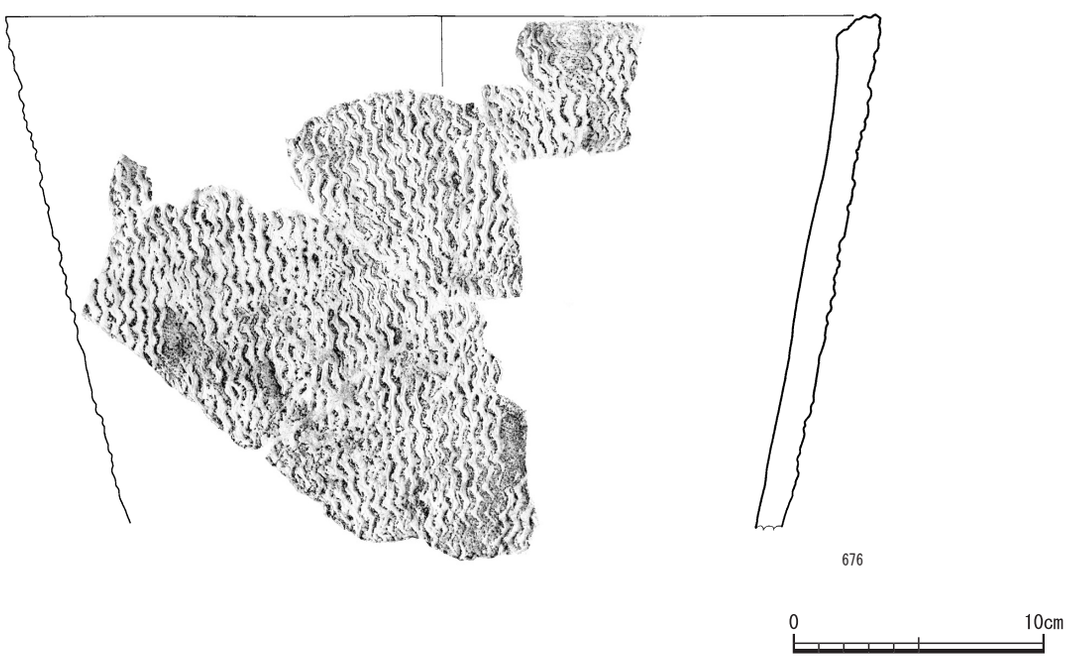
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
312	638	6.211	▲19444(-/-) ▲19471(-/-)	輝,雲,砂粒,赤粒	ハケ→粗いナデ	-	-
312	639	6.211	▲8210(J-3/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	ハケ→ナデ	口唇部:ハケ→ナデ	-
312	640	6.211	▲9963(H-3/Ⅷ)	黒,輝,細粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母
312	641	6.211	▲19415(-/-)	輝,雲,細粒	ハケ→ナデ	底面:白色化	-
312	642	6.211	▲9537(G-3/Ⅶ)	黒,輝,細粒,赤粒	ハケ→ナデ	-	-
312	643	6.211	▲8275(G-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ハケ→ナデ	-	-
313	644	6.211	▲12884(I-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	-	-	-
313	645	6.211	▲19472(-/-)	輝,雲,砂粒,赤粒	縦ケズリ→ナデ	-	-
313	646	6.211	▲9263(J-3/Ⅶ)	黒,輝,砂粒	ハケ→ナデ	-	混和材:黒雲母,細粒多量
313	647	6.211	▲19429(-/-)	角,輝,細粒	ハケ→丁寧なナデ	-	胎土精選
314	648	6.212	▲8972(I-5/Ⅶ) ▲10195(I-5/Ⅶ) ▲10201(I-5/Ⅶ) ▲10675(I-5/Ⅶ) ▲13688(I-5/Ⅶ)	輝,角,砂粒	横ケズリ→ユビナデ	-	胎土精選
314	649	6.212	▲9170(J-5/Ⅵa)	輝,角,細粒	ハケ→ナデ	-	-
314	650	6.212	▲18002(J-4/Ⅶ下)	角,輝,雲,細粒	-	-	-
314	651	6.212	▲8428(G-4/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	-	-	-
314	652	6.212	▲8952(I-4/Ⅵa)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	-	胎土精選
314	653	6.212	▲12776(J-3/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	ハケ→ユビナデ	-	胎土精選
314	654	6.212	▲13639(I-4/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ケズリ→ナデ	-	胎土精選
314	655	6.212	▲10753(H-5/Ⅶ) ▲10756(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	補修孔:外径12mm,内径6mm

第88表　縄文早期土器観察表（46）（6群土器-14）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
314	656	6.212	▲9151(J-5/Ⅶ)	輝,黒,細粒	-	-	-
314	657	6.212	▲9989(I-6/Ⅷ)	黒,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	細粒多量
314	658	6.212	▲9259(J-3/Ⅶ)	輝,雲,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
314	659	6.212	▲19487(-/-)	輝,角,砂粒	-	-	-
314	660	6.212	▲10755(H-5/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	-
314	661	6.212	▲8975(I-5/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ハケ→ナデ	-	胎土精選
314	662	6.212	▲8231(J-3/Ⅶ) ▲13210(J-3/Ⅷ上)	輝,角,砂粒,赤粒	横ケズリ→ユビナデ	-	胎土精選
314	663	6.212	▲10720(H-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ケズリ→ユビナデ	-	-
314	664	6.212	▲10309(J-5/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	細粒多量
314	665	6.212	▲19434(-/-)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ユビナデ	-	-
315	666	6.313	▲8251(H-3/Ⅷ)	黒,輝,細粒	横ケズリ→ナデ	-	混和材:黒雲母,細粒多量
315	667	6.313	▲13636(I-4/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	斜ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
315	668	6.313	▲9418(F-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
315	669	6.313	▲10744(H-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	-	-	細粒多量
315	670	6.313	▲19439(-/-)	角,輝,細粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
315	671	6.313	▲10674(I-5/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→丁寧なナデ	-	-
315	672	6.313	▲9155(J-5/Ⅵa)	輝,雲,砂粒	-	-	細粒多量
315	673	6.313	▲10288(J-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	ユビナデ	細粒多量
315	674	6.313	▲8229(J-3/Ⅶ) ▲8230(J-3/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	ハケ→ユビナデ	細粒多量



第315図　縄文早期土器実測図（95）（6.313群土器/耳取調査区出土）



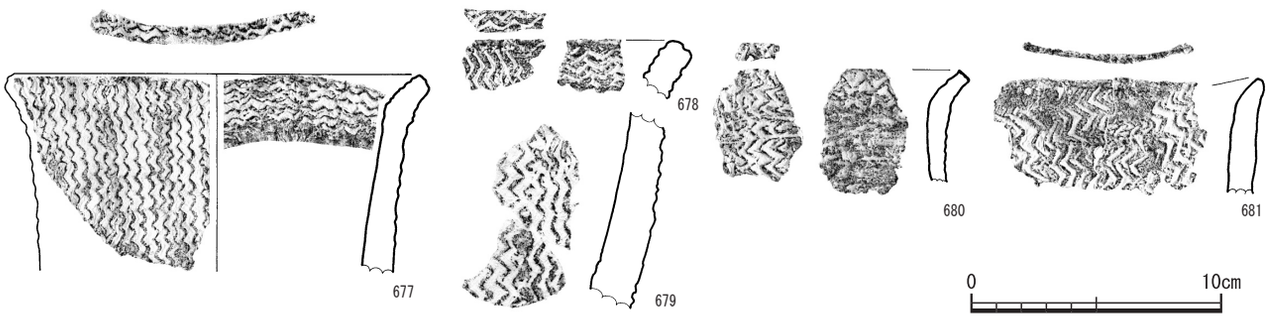
第316図　縄文早期土器実測図（96）（6.314群土器/耳取調査区出土）

きる。この接合痕部の外面には土器片外面の文様につながる網目撚糸文が施されている。この特徴は，第６群土器では観察できる特徴であり，本種土器が押型文の規範の中で製作されたことを如実に示す好例である。

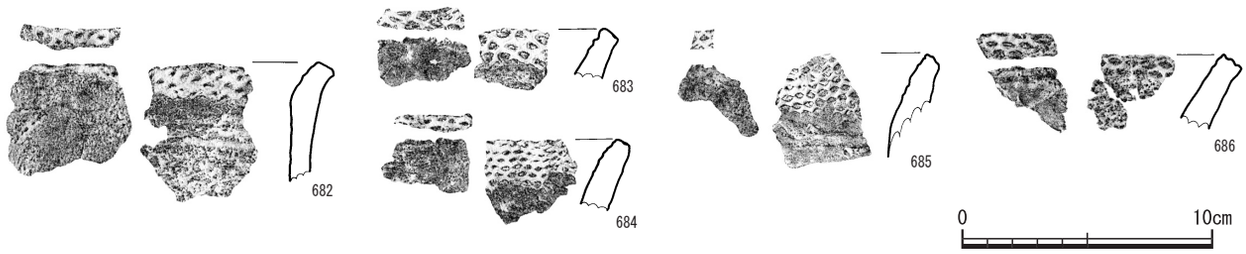
調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整もしくは粗いナデ調整を行う土器が主体を占めることを指摘できる。

ここで注目できるのは，外器面や内器面ともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すことである。この特徴は，第６群土器のなかでは本種土器以外には，第５類土器第１タイプ土器第５種土器と第６種土器のみに認められる特徴である。

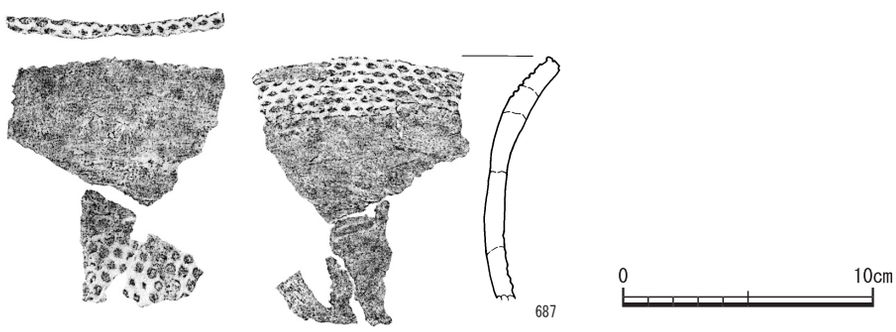
本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石で構成される土器が多く，また粗い粒度の鉱物を含む土器も観られたことが挙げられる。



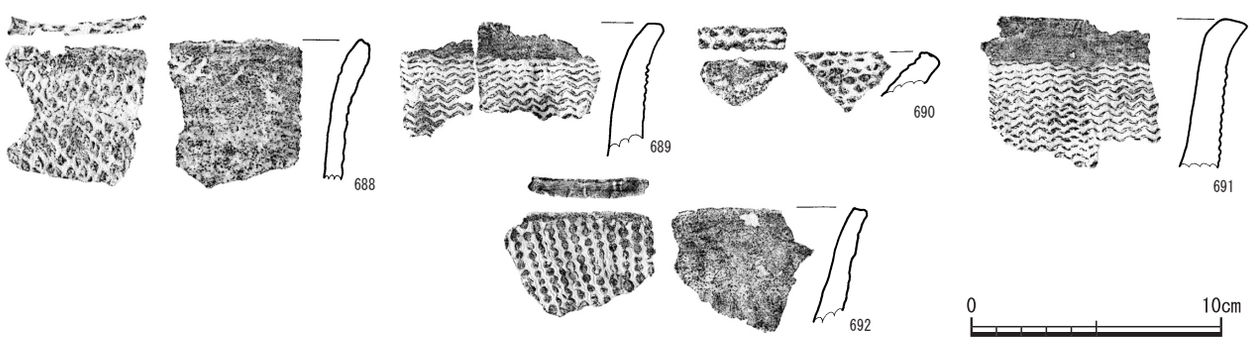
第317図　縄文早期土器実測図（97）（6.314群土器/耳取調査区出土）



第318図　縄文早期土器実測図（98）（6.171群土器/耳取調査区出土）



第319図　縄文早期土器実測図（99）（6.171群土器/桐木調査区出土）



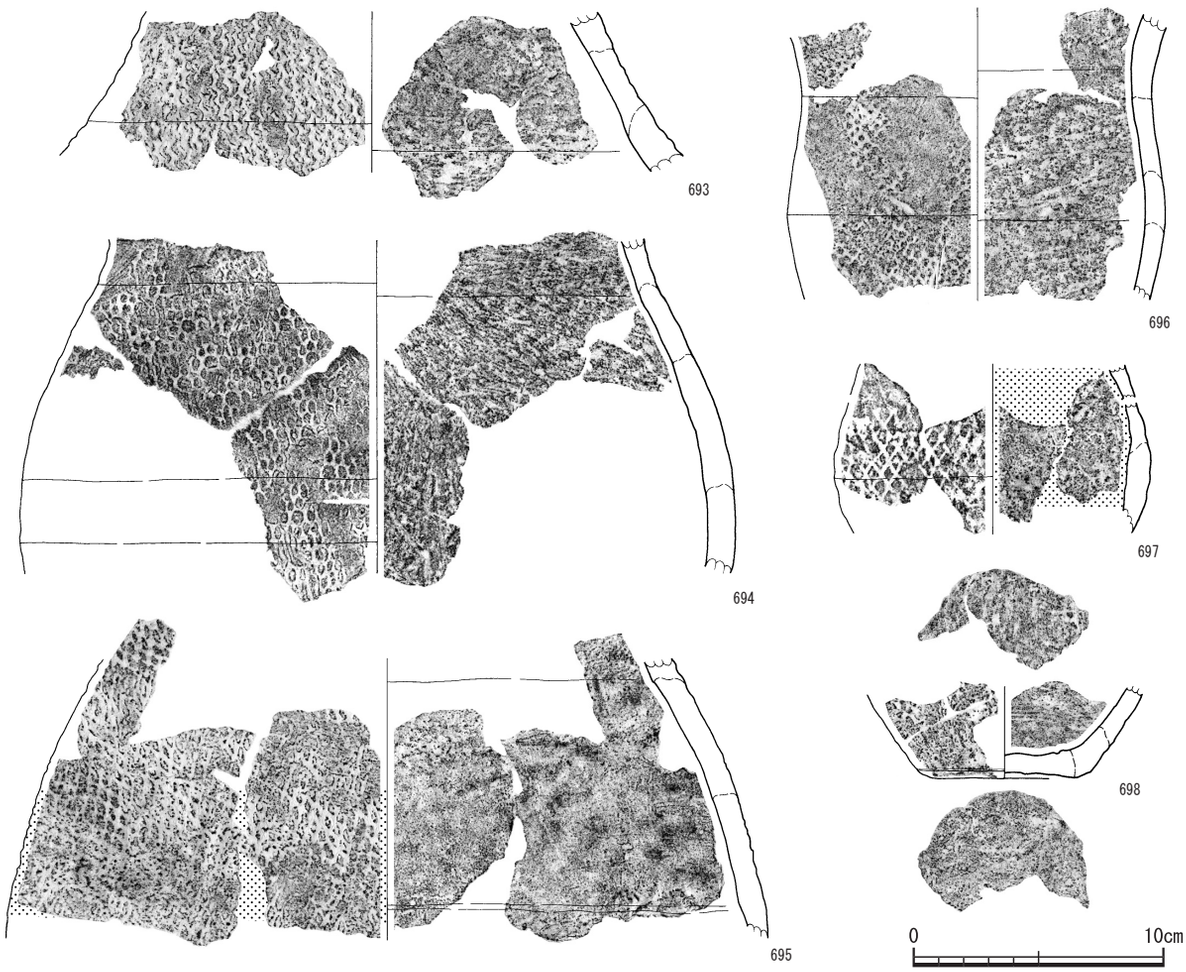
第320図　縄文早期土器実測図（100）（6.171群土器/6.172群土器/耳取調査区出土）

第89表　縄文早期土器観察表（47）（6群土器-15）

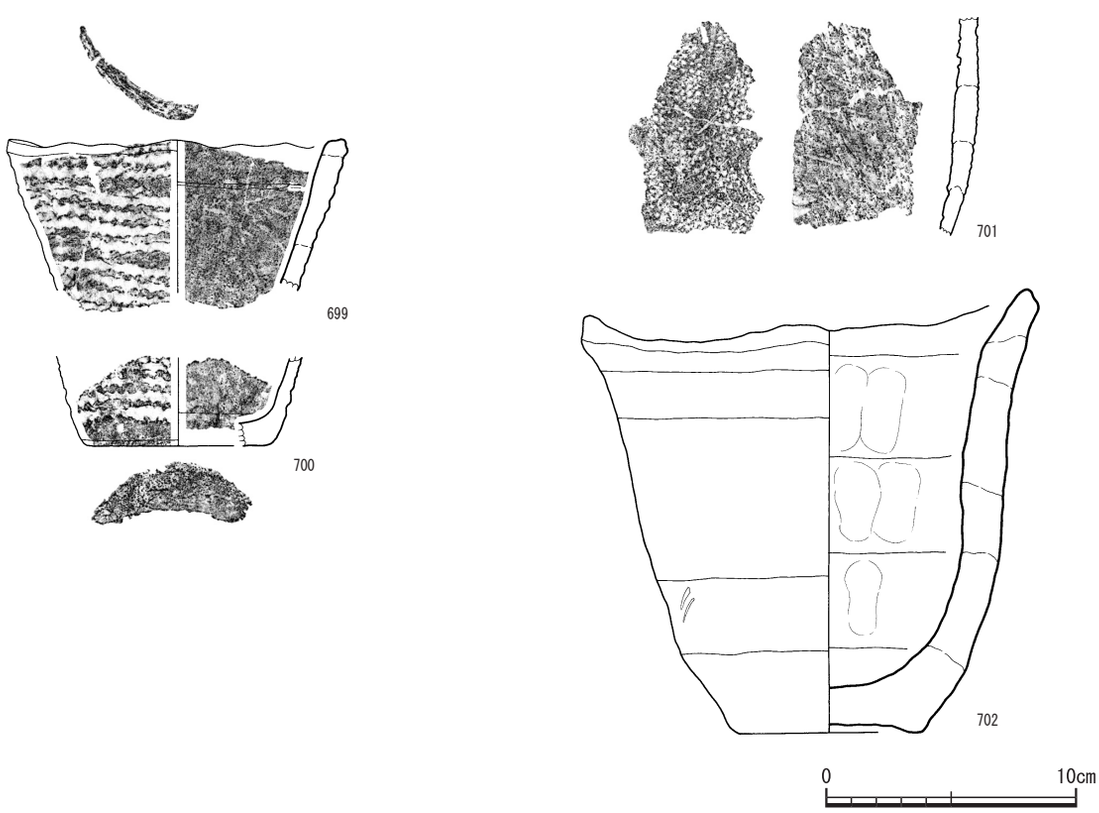
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
315	675	6.313	▲9986(F-4/Ⅶ) ▲10562(F-4/Ⅶ) ▲10563(F-4/Ⅶ)	角,輝,砂粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	-
316	676	6.314	▲10156(E-4/Ⅶ) ▲10170(E-4/Ⅶ) ▲12677(E-4/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	斜,横ケズリ→粗いナデ	-	-
317	677	6.314	▲10304(J-5/Ⅶ)	角,輝,雲,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
317	678	6.314	▲12636(G-6/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	-	-	-
317	679	6.314	▲11014(J-13/Ⅶ) ▲11016(J-13/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	砂粒多量
317	680	6.314	▲13076(G-5/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
317	681	6.314	▲10503(G-3/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	-	細粒多量
318	682	6.171	▲10558(G-4/Ⅶ)	輝,黒,砂粒	横ケズリ→粗いナデ	斜ヘラナデ→ユビナデ	-
318	683	6.171	▲836(I-4/Ⅵa)	輝,黒,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→丁寧なナデ	-

第90表　縄文早期土器観察表（48）（6群土器-16）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
318	684	6.171	▲7974(F-5/Ⅶ)	輝,角,雲,砂粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	-
318	685	6.171	▲17851(J-5/Ⅶ)	輝,雲,砂粒,赤粒	横工具ナデ→丁寧なナデ	横ハケ→ユビナデ	-
318	686	6.171	▲8113(I-3/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→丁寧なナデ	-
319	687	6.171	●9307(け-27/Ⅶ) ●51173(さ-27/Ⅶ)	輝,角,細粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
320	688	6.171	▲9925(F-4/Ⅶ上)	輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→ナデ	-	細粒多量
320	689	6.172	▲9409(H-6/Ⅵa) ▲10478(H-6/Ⅶ) ▲12638(H-6/Ⅶ)	角,輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	横ハケ→ナデ	-
320	690	6.171	▲10649(I-4/Ⅶ)	角,輝,細粒	-	横ハケ→ナデ	-
320	691	6.172	▲10506(G-3/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ,ミガキに近い丁寧なナデ	横ハケ→ナデ	-
320	692	6.171	▲2422(I-18/Ⅶ)	輝,雲,細粒	斜ケズリ→丁寧なナデ	口唇部:ミガキに近い丁寧なナデ	-



第321図　縄文早期土器実測図（101）（6.511群土器/桐木調査区出土）



第322図　縄文早期土器実測図（102）（6.4群土器/桐木/耳取調査区出土）

さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区け～さ-26～30区周辺に部分的に出土していることが指摘できる(第324図・第274図～第278図参照)。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第４種土器(分類記号6.514，第328図712・713)

器形的特徴としては，口縁部は大きく外反し，胴部上半部に屈曲部があるのが特徴である。また本遺跡では胴部下半部から底部にかけての接合資料が無く，形態は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向の山形押型文を施し，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の山形押型文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面に横位方向の山形押型文を巡らすのが特徴である。

調整方法としては，内器面では，直前調整として木製工具によるハケ調整の後に，最終調整としてナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を行う土器であることが挙げられる。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に輝石や雲母，粗い粒度の鉱物で構成されることが指摘できる。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第５種土器(分類記号6.515，第329,330図714～721)

器形的特徴としては，口縁部が短く強く外反する形態の土器(第329図714,716)と，短く緩やかに外反する形態の土器(第330図718)とがあるのが特徴である。底部形態については，接合資料がないため，詳細は不明である。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向に縄文を施し，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に縦位方向の縄文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面には横位方向の縄文を１条巡らす土器(第329図714,716)と，口縁部内面を無文にする土器(第330図718)とがある。

調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整としては木製工具によるハケ調整や篦ナデ調整あるいはケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。

また，第３種土器の項で先述したように本種土器においても，外器面や内器面ともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すという特徴が認められる。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石で構成される土器が多く，また粗い粒度の鉱物を含む土器や細かい粒度の鉱物で構成される土器も観られたことが挙げられる。

さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区さ・し-29～33区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｃ・Ｄ-23区とで部分的に出土していることが指摘できる(第325図・第274図～第278図参照)。

第６群土器第５類土器第１タイプ土器第６種土器(分類記号6.516，第332図～335図722～738)

器形的特徴としては，口縁部が大きく緩やかに外反する形態の土器(第333図725，第334図726,727)と，直線的に外に開く形態の土器(第334図728,730～732)とがあるのが特徴である。また，胴部下半部では丸味をもちながらすぼまる形態を呈する土器が特に注目できる。

施文的特徴としては，口唇部文様帯には文様を施さず，口縁部文様帯から胴部文様帯にかけて外面全面に横位方向および斜位方向の変形撚糸文を施すことが挙げられる。さらに口縁部内面は無文にする土器である。

調整方法としては，内器面では，最終調整としてナデ調整および丁寧なナデ調整を行う土器が主体を占めることが挙げられる。また，直前調整としては木製工具による横方向や斜方向のハケ調整や，ケズリ調整の痕跡をとどめる土器が多く観られた。また，第３種土器や第５種土器の項で先述したように本種土器においても，外器面や内器面ともに接合痕跡をそのまま明瞭に残すという特徴が認められる。

本種土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石で構成される土器や，主に輝石・雲母で構成される土器が多く，また細かい粒度の鉱物を多く含む土器も観られたことが挙げられる。

さて，出土分布図から本種に属する土器は主に，桐木調査区西側地区のうち，特に桐木調査区く～こ-24～28区周辺と，桐木調査区南側地区のうち，特に桐木調査区Ｈ・Ｉ-34区とで部分的に出土していることが指摘できる(第325図・第274図～第278図参照)。ここで示した桐木調査区西側地区と南側地区とで部分的に出土するという特徴は，先述したように第１種土器や第５種土器にも共通してみられる特徴である。

特に注目できるのは，第334図726である。この土器には口縁部下端から胴部上端にかけて補修孔と考えられる孔が２つ並んで穿たれている。その間隔は心心距離で32㎜を測る。

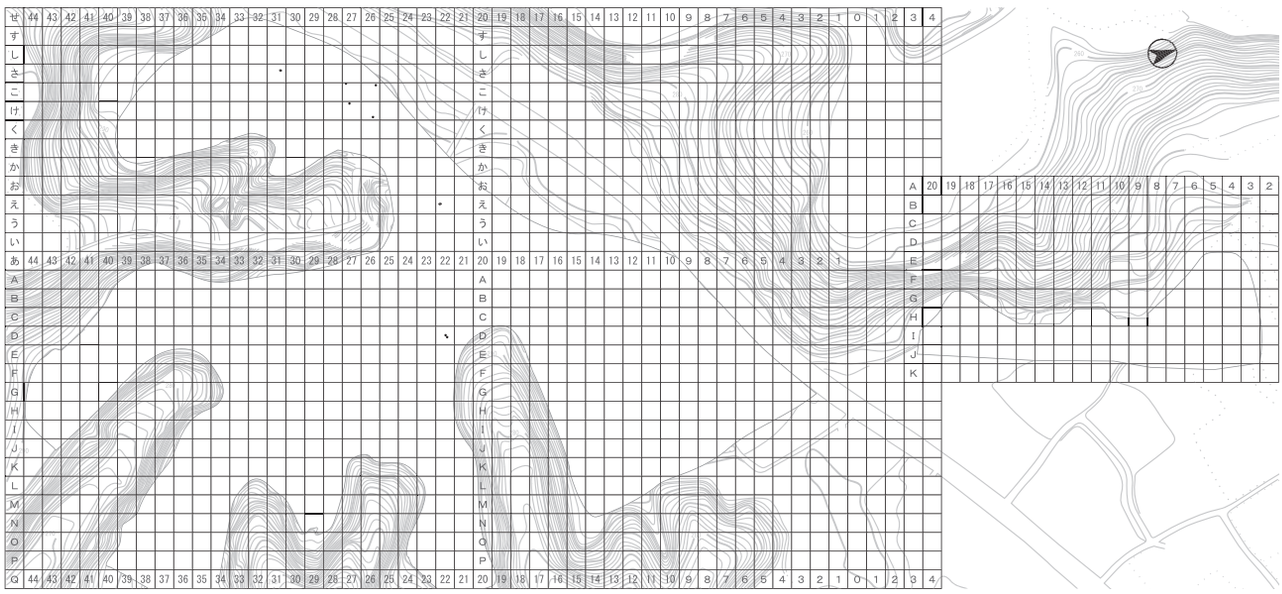
第６群土器第６類土器(分類記号6.6，第339・340図739～746)

第６群土器第６類土器に属する土器を８点資料化した。

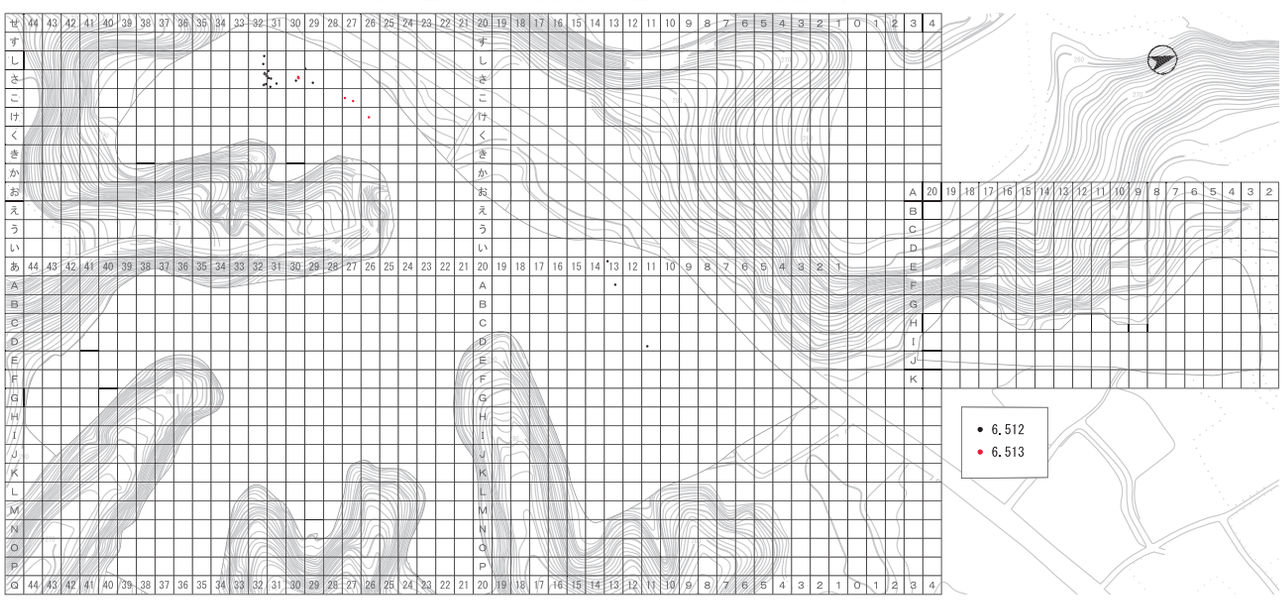
本類土器は，口唇上端部が内傾する平坦面を作出する土器を指標とする。また，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず，１種類に限られるという特徴が挙げられる。

器形的特徴としては，口縁形態は平口縁を呈し，口縁部は若干内弯して，口唇部は水平な平坦面あるいは内傾する平坦面を作出する。また，胴部は直線的にすぼまるのが特徴である。底部形態は平底となる。

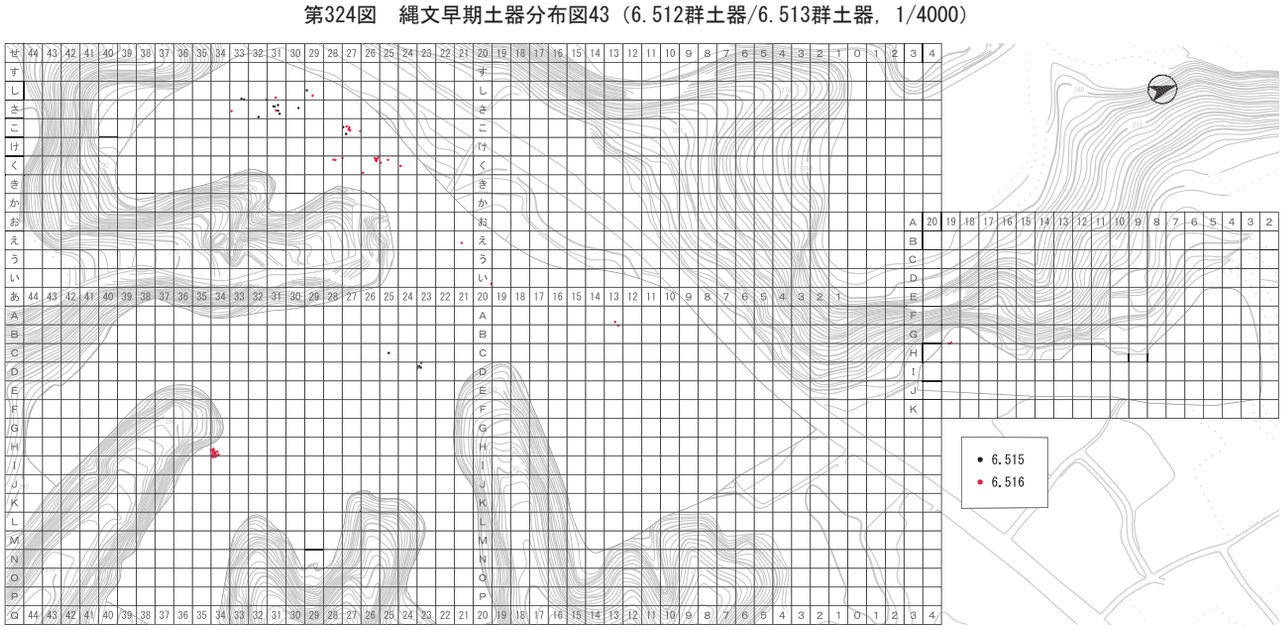
施文的特徴としては，口唇部文様帯には横位方向に押型文を施し，口縁部文様帯には横位方向に押型文を１条施すのが特徴である。また，胴部文様帯には胴部下端部にかけて全面にわたり，横位方向に押型文を施す土器(第339図741～744)と，縦位方向に押型文を施す土器(第339図739,740,742)とに分けられることが指摘できる。また本タイプ土器では，山形押型文を施す第１種土器(分類記号6.601，第339図739,740,742)と，楕円押型文を施す第２種土器(分類記号6.602，第339・340図741,743～746)との２種類の土器がある。



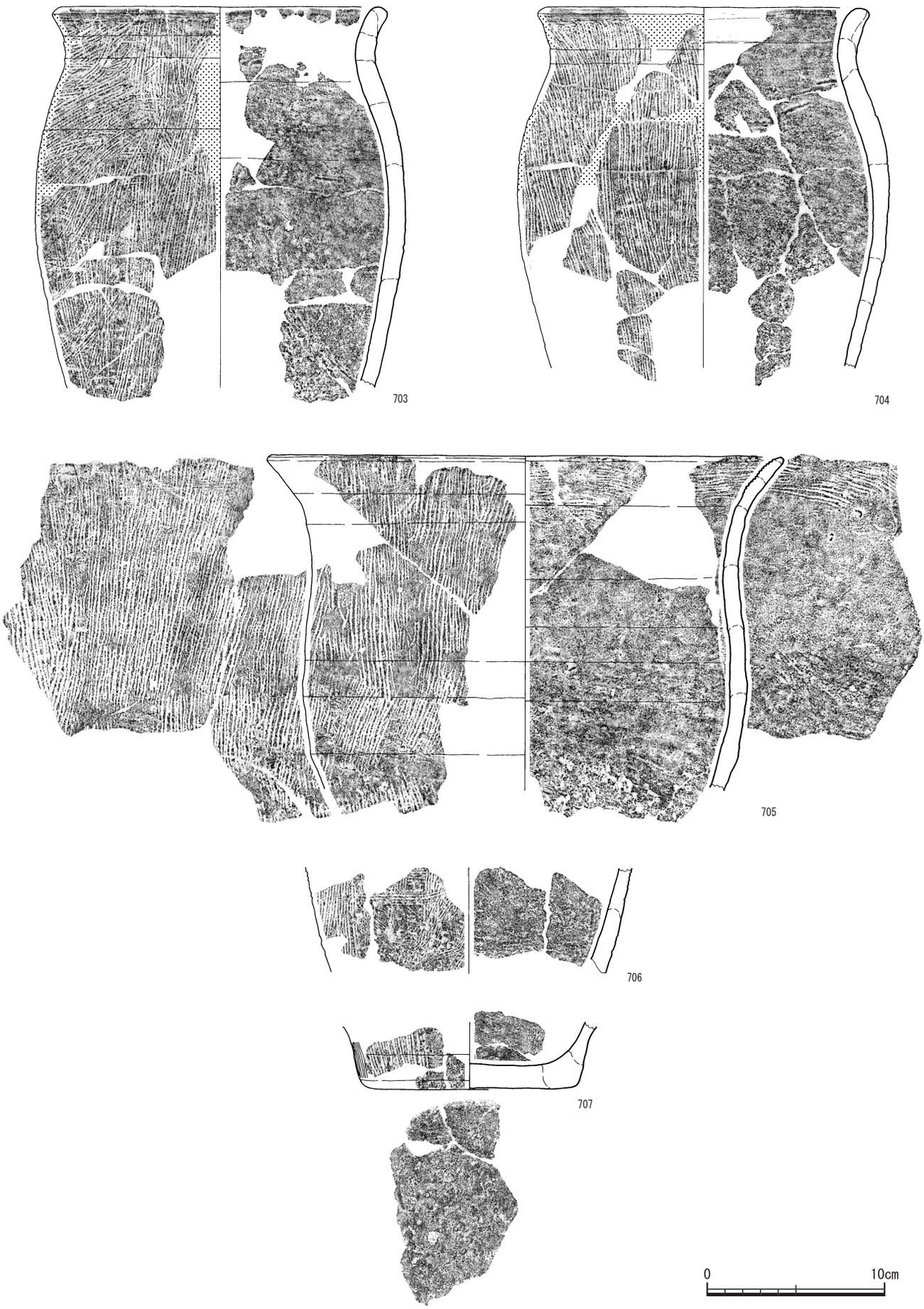
第323図　縄文早期土器分布図42（6.511群土器，1/4000）



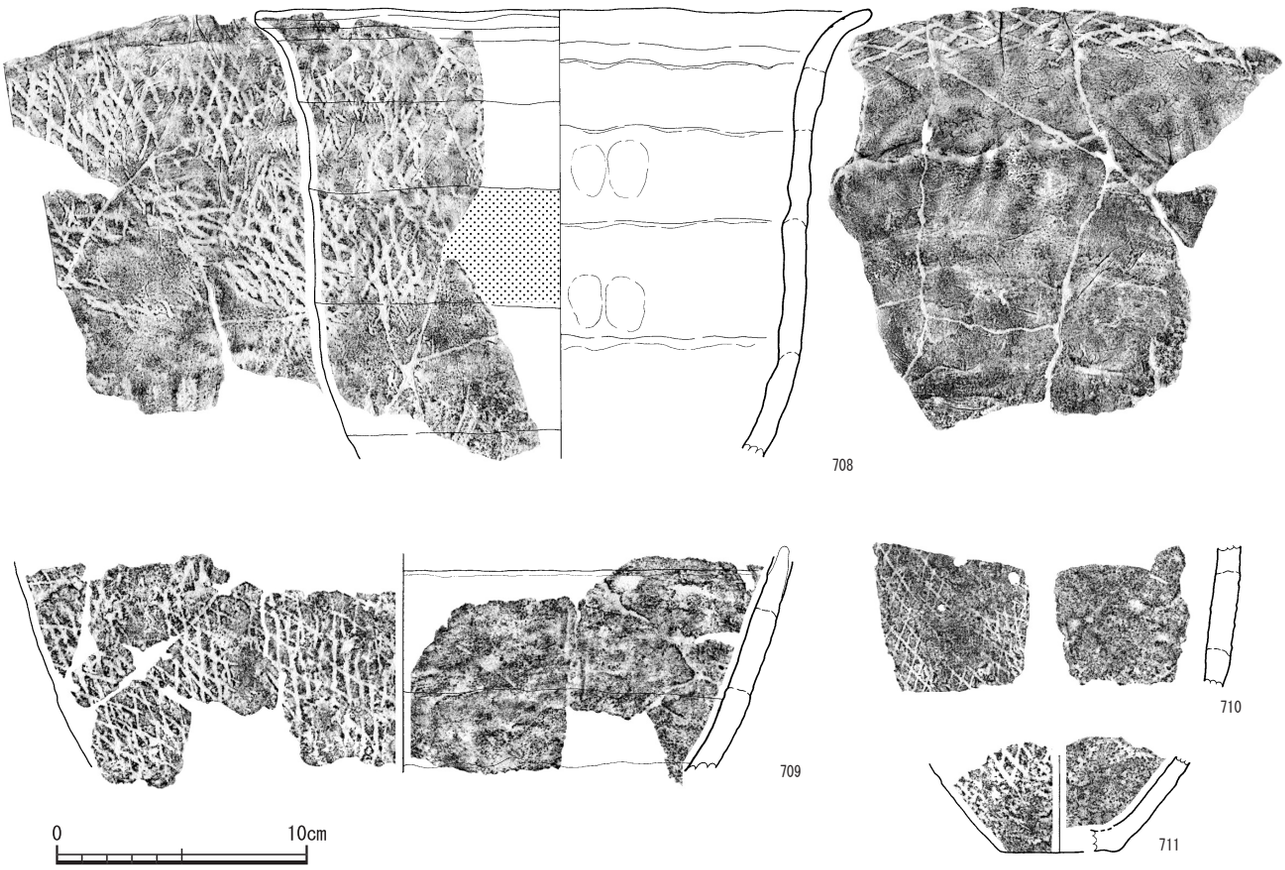
第324図　縄文早期土器分布図43（6.512群土器/6.513群土器，1/4000）



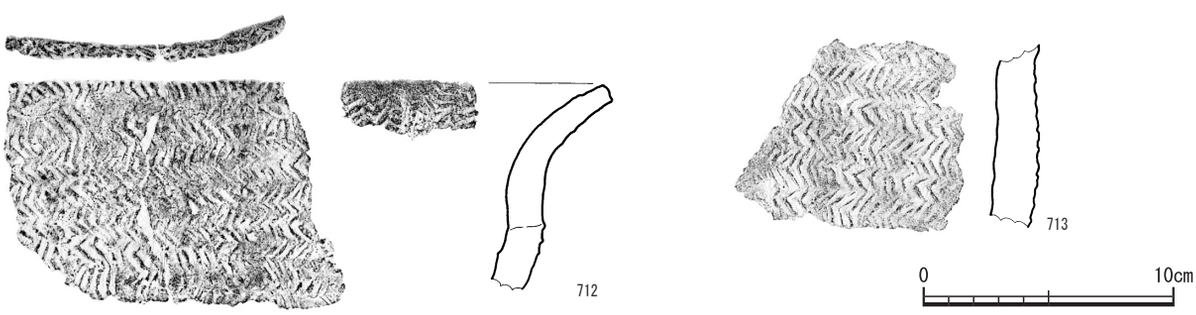
第325図　縄文早期土器分布図44（6.515群土器/6.516群土器，1/4000）



第326図　縄文早期土器実測図（103）（6.512群土器/桐木調査区出土）



第327図　縄文早期土器実測図（104）（6.513群土器/桐木調査区出土）



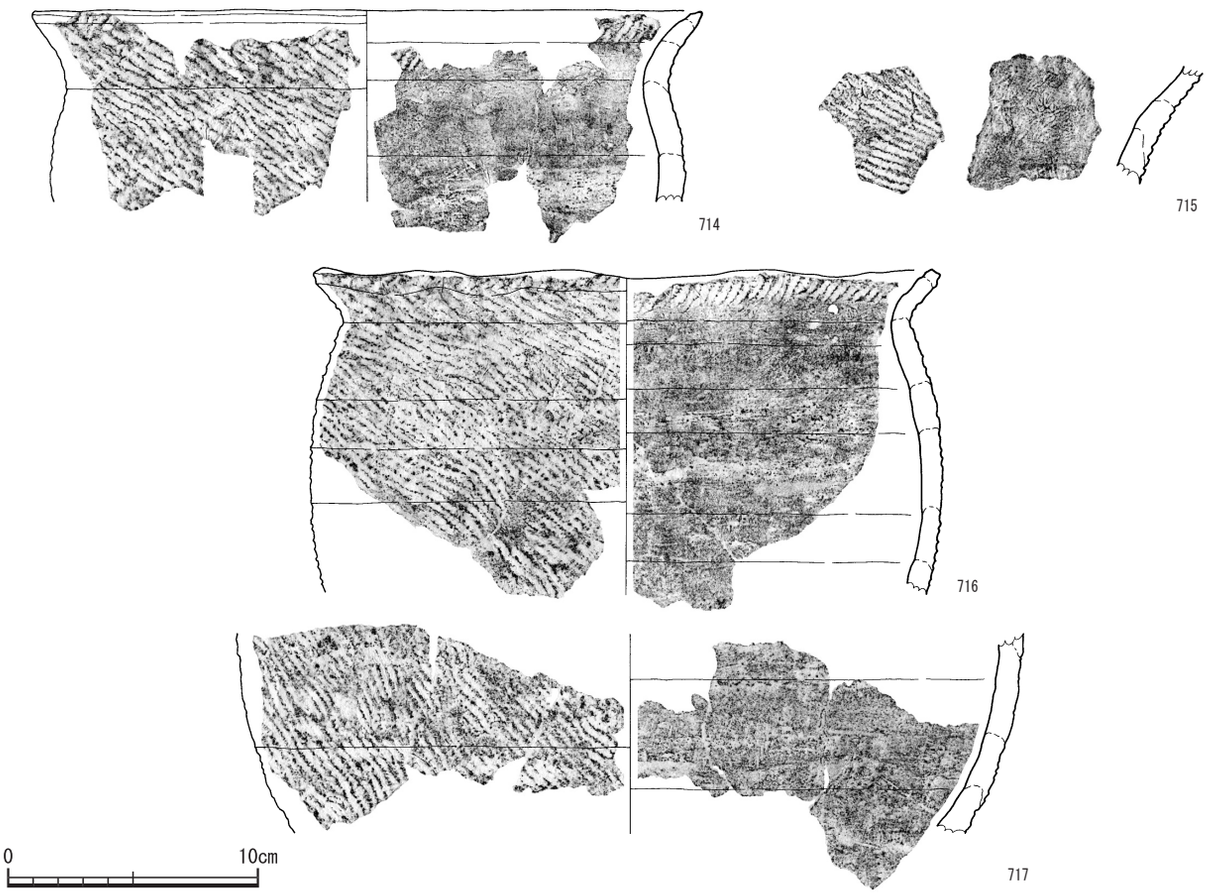
第328図　縄文早期土器実測図（105）（6.514群土器/耳取調査区出土）

第91表　縄文早期土器観察表（49）（6群土器-17）

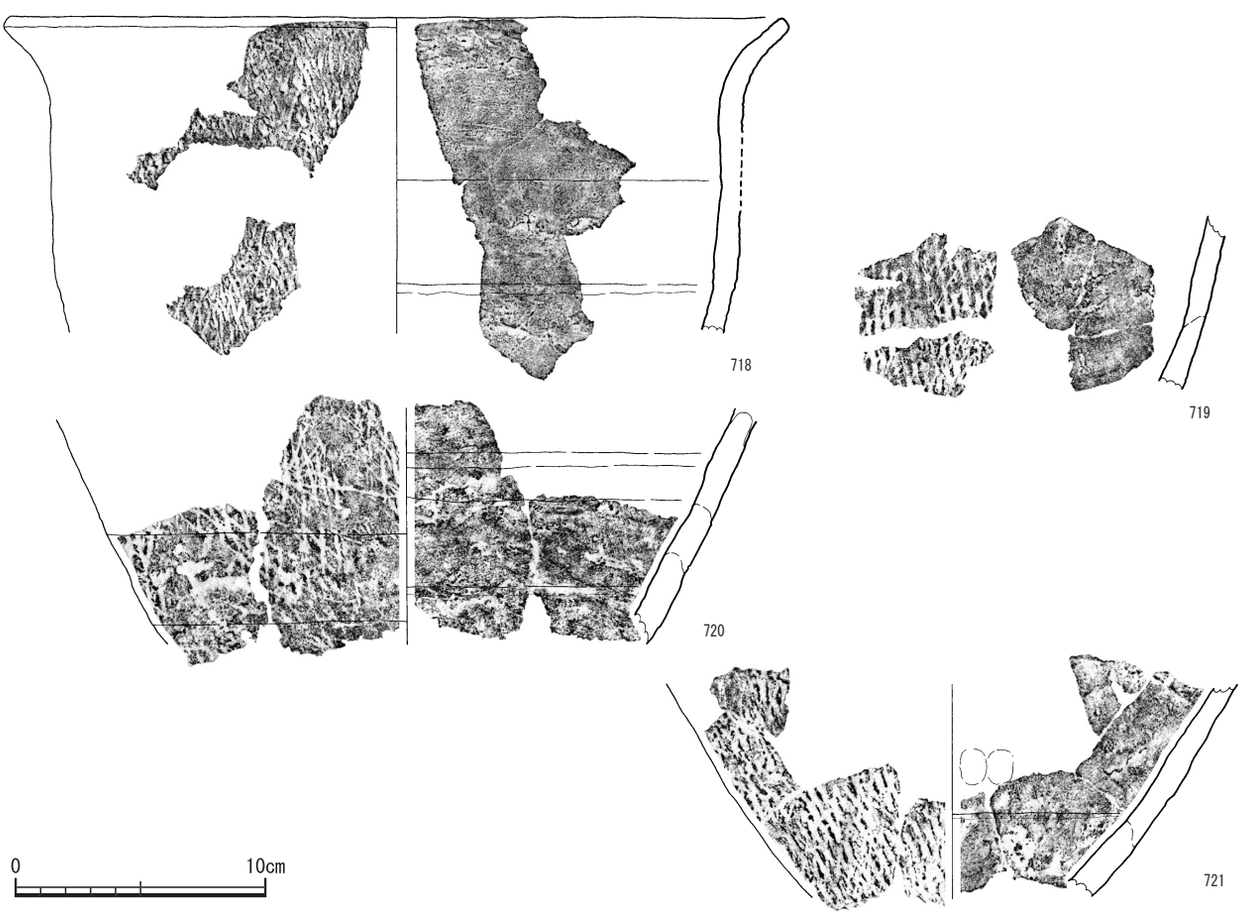
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
321	693	6.511	●集石A8-1(-/-)	角,細粒	横ケズリ→粗いナデ	-	-
321	694	6.511	●2394(さ-31/Ⅶ) ●50023(さ-31/Ⅶ)	角,雲,細粒	斜ケズリ→粗いナデ, 横ハケ→粗いナデ, 縦ケズリ→粗いナデ	-	-
321	695	6.511	◎32988(け-26/Ⅶ下) ●50935(け-27/Ⅶ) ●51131(こ-26/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ	-	外面スス付着, 砂粒多量
321	696	6.511	○71721(D-22/Ⅶ下) ○71726(D-22/Ⅶ)	黒,砂粒	ナデ,斜ケズリ→粗いナデ	-	-
321	697	6.511	●50374(こ-27/Ⅶ) ●一括(-/-)	雲,輝,細粒	ナデ	-	内面スス付着
321	698	6.511	●7114(え-22/Ⅶ) ●7116(え-22/Ⅶ)	砂粒	横ケズリ→ナデ	ケズリ→ナデ	内面スス付着
322	699	6.4	●51371(く-25/Ⅶ) ●51371(く-25/Ⅶ) ●51372(く-25/Ⅶ) ●51372(く-25/Ⅶ) ●51373(く-25/Ⅶ)	角	ナデ	ナデ,口唇部: 丁寧なナデ	混和材:角閃石
322	700	6.4	●51379(く-28/Ⅶ)	角,輝,砂粒	縦ナデ	-	-
322	701	6.4	●51023(く-27/Ⅶ)	黒,赤粒砂粒	縦ケズリ→粗いナデ	-	混和材:黒雲母, 砂粒多量, 内面スス付着
322	702	6.4	▲13105(I-7/Ⅶ下)	輝,角,雲,細粒	横ケズリ→粗いナデ	横ハケ →丁寧なナデ	爪痕有り
326	703	6.512	●1730(さ-32/Ⅶ) ●2306(さ-32/Ⅶ) ●2316(さ-32/Ⅶ) ●2374(さ-31/Ⅶ) ●2426(さ-30/Ⅶ) ●51641(し-30/Ⅶ)	黒,砂粒,角,滑	ヘラナデ,ケズリ →丁寧なナデ	口唇部:ヘラナデ	外面スス付着

第92表　縄文早期土器観察表（50）（6群土器-18）

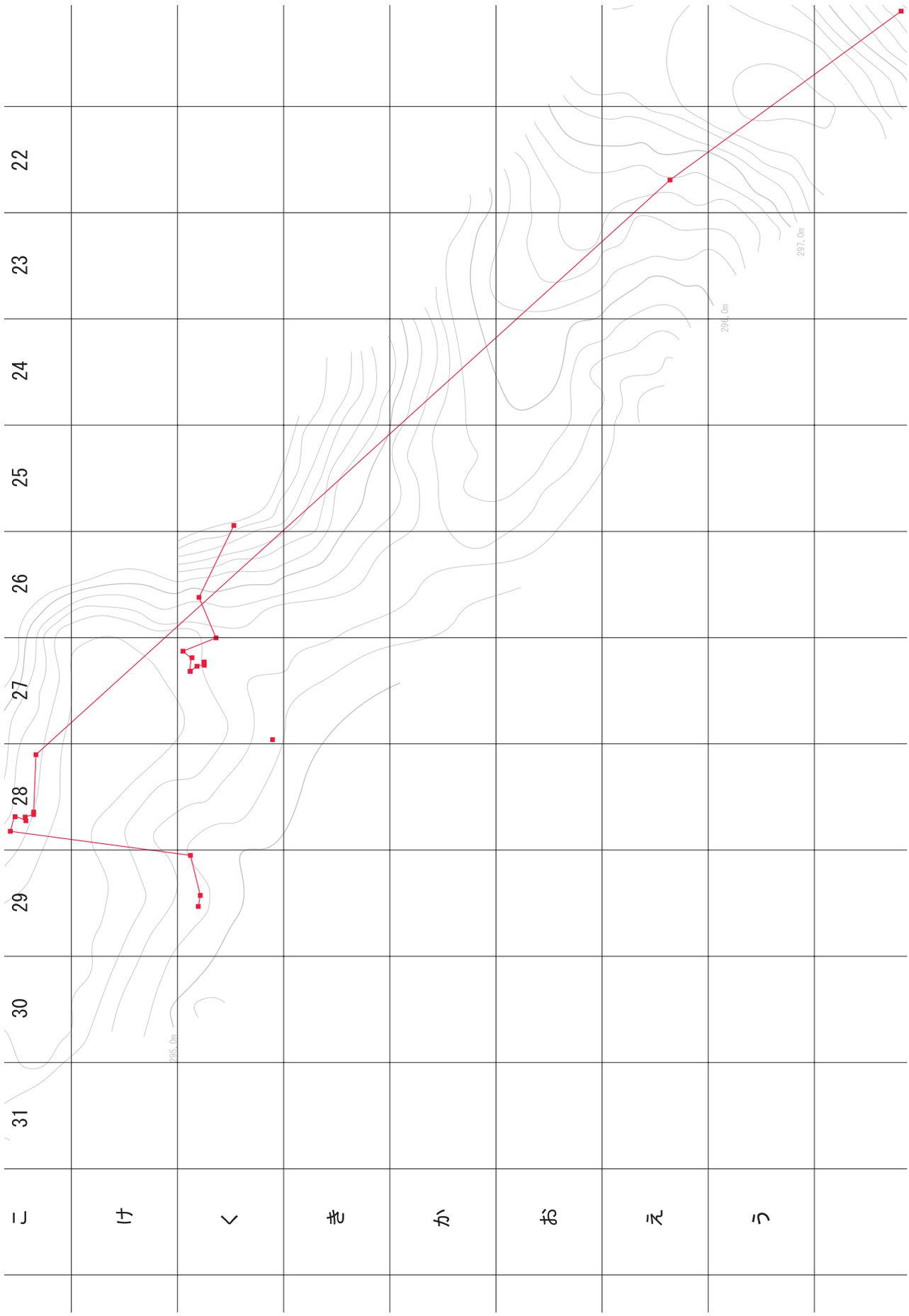
挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
326	704	6.512	●1715(さ-32/Ⅶ) ●1725(さ-31/Ⅶ) ●1742(さ-32/Ⅶ) ●1747(さ-32/Ⅶ) ●1794(さ-32/Ⅶ) ●2331(し-32/Ⅶ) ●2336(し-32/Ⅶ) ●2438(さ-31/Ⅶ) ●50506(さ-29/Ⅶ)	角,砂粒,滑	ヘラナデ, 横ケズリ→ナデ	口唇部:ヘラナデ	外面スス付着
326	705	6.512	◎9741(あ-13/Ⅶ) ◎11208(A-13/Ⅶ下) ○9719(D-11/Ⅴ下)	砂粒,輝,角	横,横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	外面スス付着
326	706	6.512	●1746(さ-32/Ⅶ) ●1795(さ-31/Ⅶ)	角,細粒	横ハケ→ナデ	貝殻条痕	-
326	707	6.512	●1740(さ-32/Ⅶ) ●1741(さ-32/Ⅶ) ●1745(さ-32/Ⅶ)	角	ナデ	-	-
327	708	6.513	◎32989(け-26/Ⅶ下)	角,砂粒	指頭痕→ナデ	-	外面スス付着
327	709	6.513	●2415(さ-30/Ⅶ) ●2422(さ-30/Ⅶ) ●2425(さ-30/Ⅶ) ●2445(さ-30/Ⅶ) ●2446(さ-30/Ⅶ)	角,輝,砂粒	横ナデ	-	内面スス付着
327	710	6.513	●50718(こ-27/Ⅶ)	輝,砂粒	粗いナデ	口唇部:ナデ	内面スス付着
327	711	6.513	●51165(こ-27/Ⅶ)	輝,雲,細粒	ナデ	ナデ	内面スス付着
328	712	6.514	▲0(-/-) ▲19454(-/-)	輝,雲,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	砂粒多量
328	713	6.514	▲19438(-/-)	輝,雲,砂粒, 赤粒	横ハケ→ナデ	-	砂粒多量



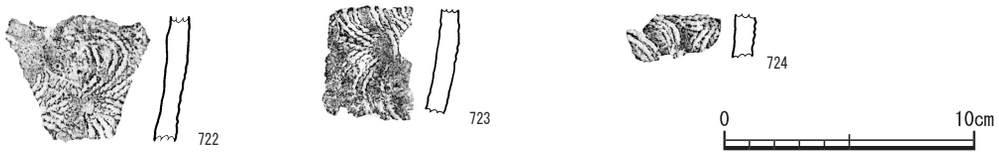
第329図　縄文早期土器実測図（106）（6.515群土器/桐木調査区出土）



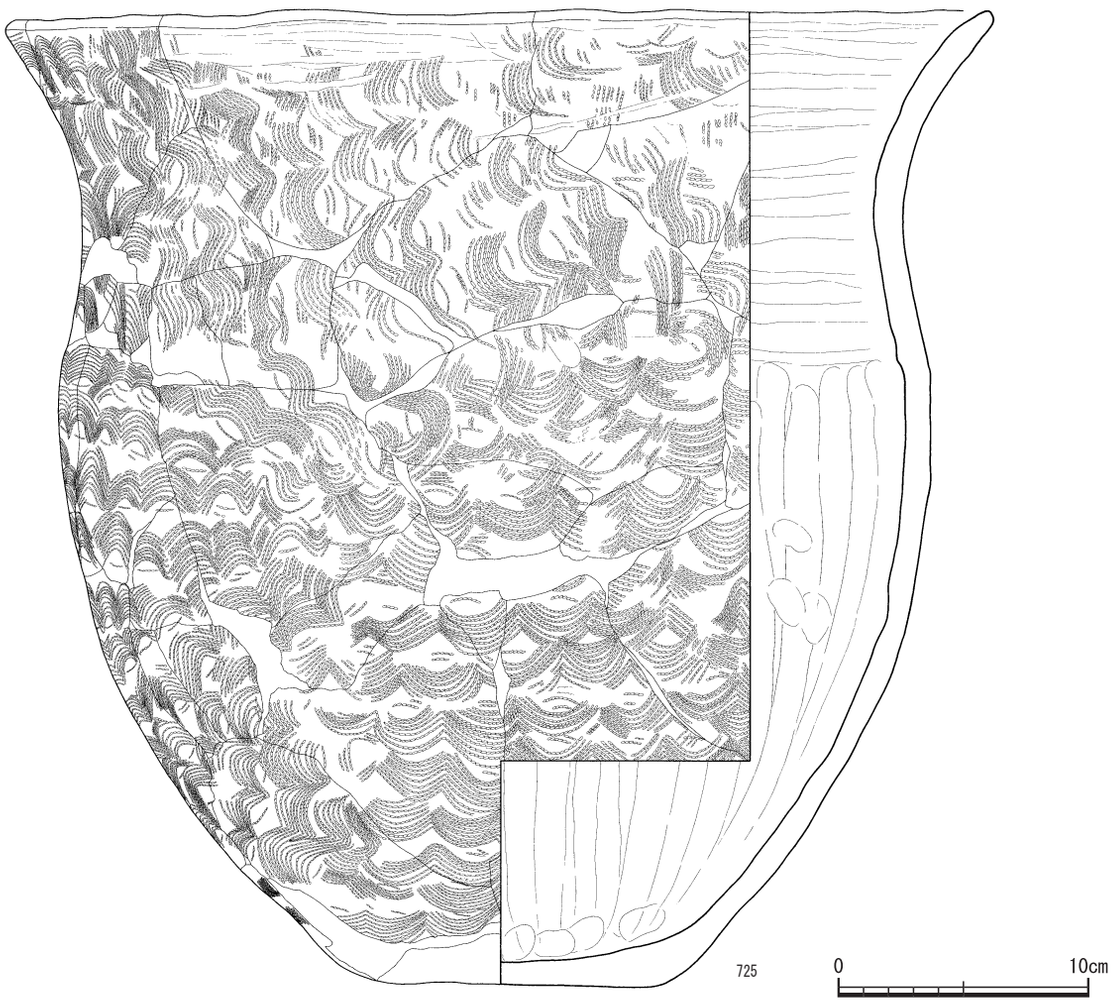
第330図　縄文早期土器実測図（107）（6.515群土器/桐木調査区出土）

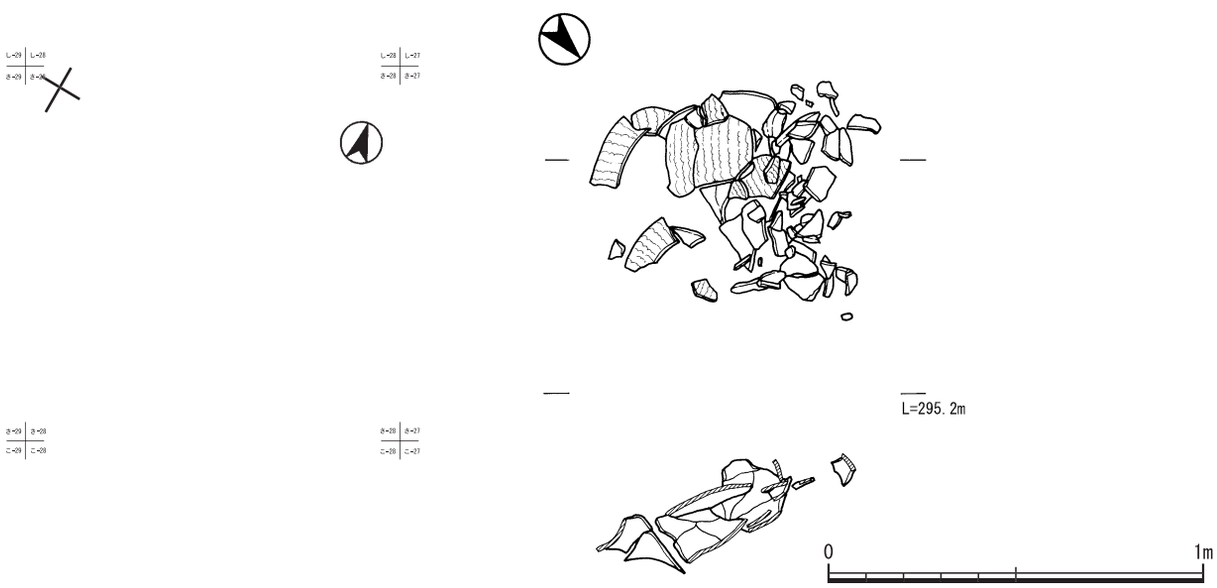


第331図　縄文早期土器分布図45（第6.516群土器，1/500）

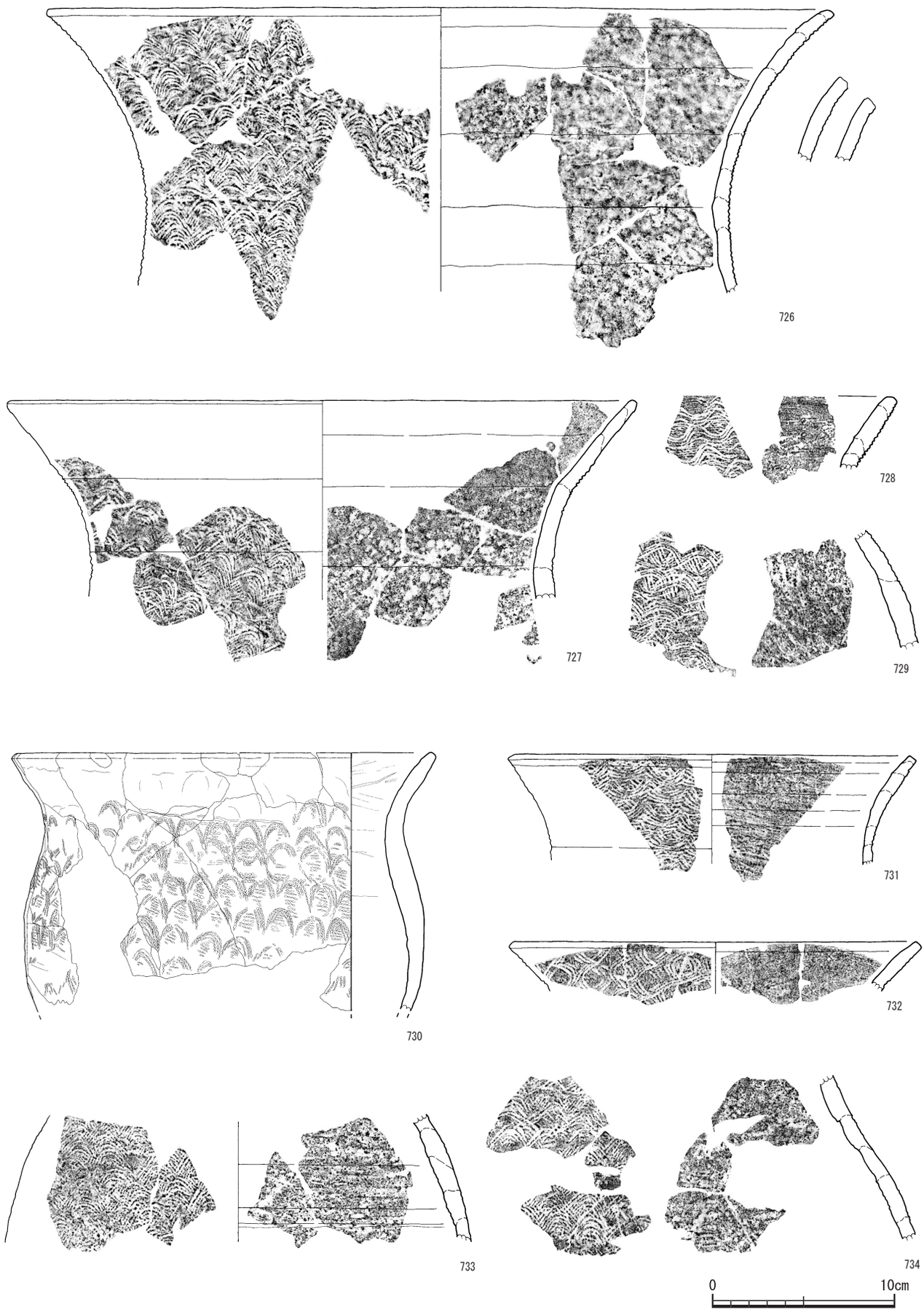


第332図　縄文早期土器実測図（108）（6.516群土器/耳取調査区出土）

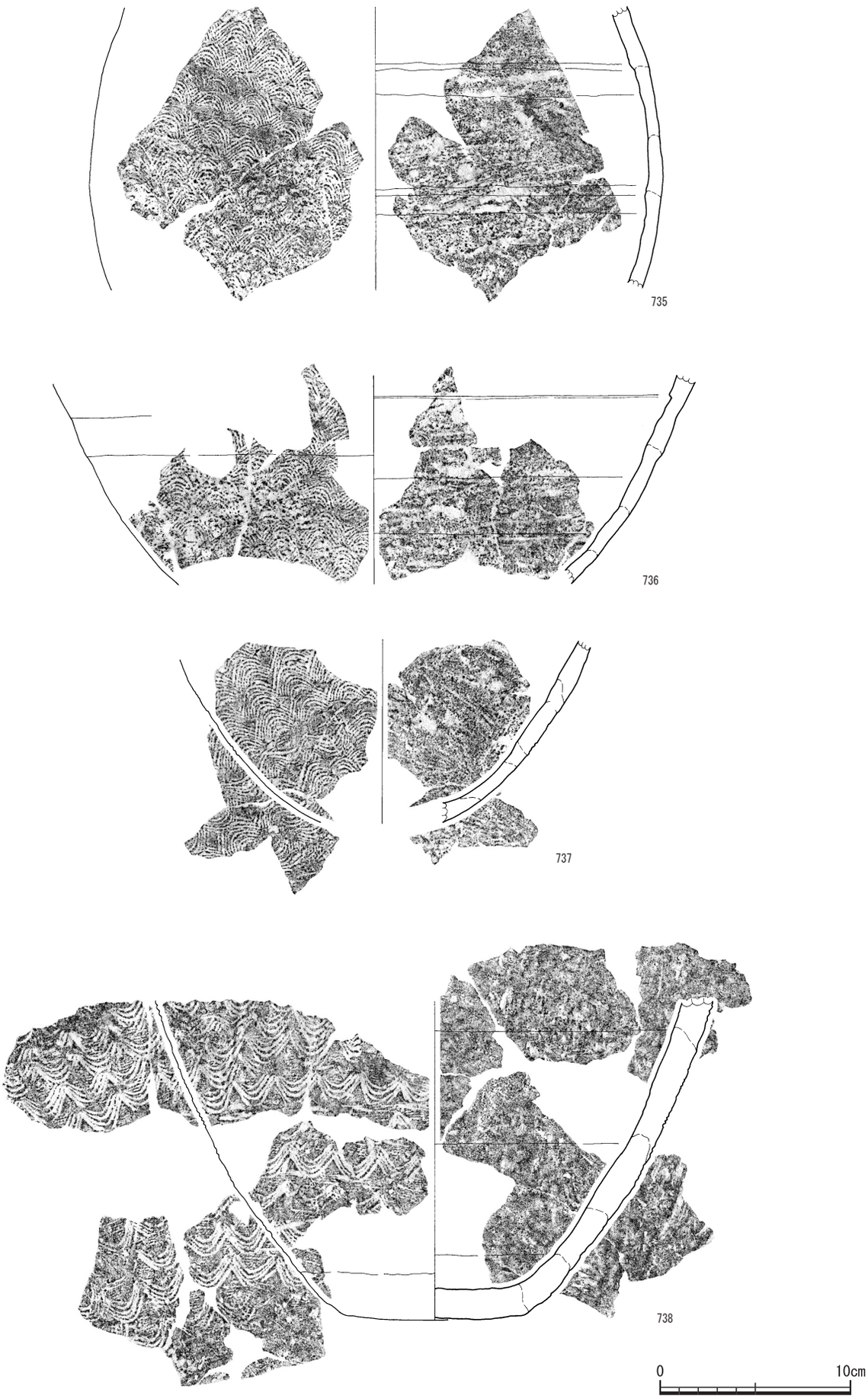




第333図　縄文早期土器実測図（109）（6.516群土器/桐木調査区出土）/（725）土器出土状況図



第334図　縄文早期土器実測図（110）（6.516群土器/桐木調査区出土）



第335図　縄文早期土器実測図（111）（6.516群土器/桐木調査区出土）

第93表　縄文早期土器観察表（51）（６群土器-19）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
329	714	6.515	○57432(D-23/Ⅶ下) ○57464(D-24/Ⅶ下)	角,砂粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	-
329	715	6.515	●50682(こ-28/Ⅶ)	角	ナデ	-	-
329	716	6.515	○57430(D-23/Ⅶ下) ○57433(D-23/Ⅶ下) ○57463(D-24/Ⅶ下) ○57464(D-24/Ⅶ下) ○57888(D-23/Ⅶ)	輝,細粒	ヘラケズリ→ハケナデ	口唇部:ナデ	-
329	717	6.515	○57430(D-23/Ⅶ下) ○57878(C-25/Ⅶ下)	角,輝,雲,砂粒	横ケズリ→ナデ	-	外面スス付着,内面スス付着
330	718	6.515	●2098(し-33/Ⅶ) ●2099(し-33/Ⅶ) ●50527(し-29/Ⅶ)	角,細粒	木製工具ナデ→ナデ	口唇部:ナデ	混和材:角閃石
330	719	6.515	●1762(さ-32/Ⅶ) ●2382(さ-31/Ⅶ) ●50009(さ-31/Ⅶ)	角,細粒	ヘラナデ	-	-
330	720	6.515	●2423(さ-30/Ⅶ) ●50901(こ-27/Ⅶ) ●50902(こ-27/Ⅶ)	角,砂粒	横ハケ→ナデ,スス付着	-	内面スス付着
330	721	6.515	●1750(し-32/Ⅶ) ●2357(さ-31/Ⅶ) ●2365(さ-31/Ⅶ) ●2384(さ-31/Ⅶ)	角,細粒,輝	指頭痕ナデ	-	-
332	722	6.516	▲3303(G-19/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	斜ハケ→丁寧なナデ	-	胎土精選
332	723	6.516	▲3304(H-19/Ⅶ)	輝,雲,細粒,赤粒	横ハケ→丁寧なナデ	-	胎土精選,内面スス付着
332	724	6.516	▲3645(H-19/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	横ハケ→ナデ	-	内面スス付着
333	725	6.516	●ヨリ12(-/-) ●ヨリ13(-/-) ●ヨリ15(-/-) ●ヨリ17(-/-) ●ヨリ18(-/-) ●ヨリ19(-/-) ●ヨリ20(-/-) ●ヨリ22(-/-) ●ヨリ26(-/-) ●ヨリ28(-/-) ●ヨリ30(-/-) ●ヨリ32(-/-) ●ヨリ35(-/-) ●ヨリ36(-/-) ●ヨリ37(-/-) ●ヨリ39(-/-) ●ヨリ4(-/-) ●ヨリ42(-/-) ●ヨリ43(-/-) ●ヨリ44(-/-) ●ヨリ45(-/-) ●ヨリ46(-/-) ●ヨリ47(-/-) ●ヨリ49(-/-) ●ヨリ5(-/-) ●ヨリ51(-/-) ●ヨリ52(-/-) ●ヨリ55(-/-) ●ヨリ56(-/-) ●ヨリ6(-/-) ●ヨリ62(-/-) ●ヨリ63(-/-) ●ヨリ64(-/-) ●ヨリ65(-/-) ●ヨリ8(-/-) ●ヨリ9(-/-)	角,輝,雲,砂粒,赤粒	口縁部:斜,横ケズリ→ヘラナデ,胴部:縦,横ケズリ→ナデ	底面:回転ヘラ切り離し	-

第94表　縄文早期土器観察表（52）（６群土器-20）

挿図No	図No	分類記号	取上No(グリッド/層位)	胎土	調整(内)	調整(外)	備考
334	726	6.516	○68130(I-34/Ⅶ) ○68131(I-34/Ⅶ) ○68133(I-34/Ⅶ) ○68143(H-34/Ⅶ) ○68144(H-34/Ⅶ) ○68157(H-34/Ⅶ) ○68160(H-34/Ⅶ) ○68163(H-34/Ⅶ)	輝,細粒	横ハケ→丁寧なナデ,指頭痕→粗いナデ	口唇部:横ハケ→丁寧なナデ	補修孔:外径13mm,内径7mm,心心距離32mm
334	727	6.516	○68135(H-34/Ⅶ) ○68139(H-34/Ⅶ) ○68145(H-34/Ⅶ) ○68154(H-34/Ⅶ) ○68155(H-34/Ⅶ) ○68162(H-34/Ⅶ)	輝,細粒	ハケ→ナデ	-	外面スス付着
334	728	6.516	●6776(L-29/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→丁寧なナデ	口唇部:ミガキに近いヘラナデ	-
334	729	6.516	◎33599(く-26/Ⅶ)	角,細粒	ヘラケズリ→ハケナデ	-	内面スス付着
334	730	6.516	●6990(い-20/Ⅶ) ●7156(え-21/Ⅶ) ●50680(こ-27/Ⅶ) ●50693(こ-27/Ⅶ) ●50694(こ-27/Ⅶ) ●50698(こ-27/Ⅶ) ●50712(こ-27/Ⅶ) ●50732(こ-27/Ⅶ) ●51152(こ-27/Ⅶ) ●51249(く-28/Ⅶ) ●51256(く-28/Ⅶ) ●51258(く-28/Ⅶ)	輝,雲,砂粒	口縁部:斜,横ケズリ→粗いナデ,胴部:横ケズリ→粗いナデ	-	-
334	731	6.516	●2079(さ-33/Ⅶ)	角,輝,細粒	横ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
334	732	6.516	○50802(B-13/Ⅶ) ○50806(A-13/Ⅶ)	輝,砂粒	ハケ→ナデ	口唇部:ナデ	-
334	733	6.516	○68129(I-35/Ⅶ) ○68134(I-34/Ⅶ)	細粒,輝	横ヘラケズリ→粗いナデ	-	-
334	734	6.516	○68141(H-34/Ⅶ) ○68142(H-34/Ⅶ) ○68146(H-34/Ⅶ) ○68153(H-34/Ⅶ)	輝,砂粒	ナデ,横ハケ→粗いナデ	-	-
335	735	6.516	○68132(I-34/Ⅶ)	砂粒,輝	横ケズリ→粗いナデ	-	-
335	736	6.516	○68150(H-34/Ⅶ) ○68152(H-34/Ⅶ) ○68159(H-35/Ⅶ) ○68161(H-34/Ⅶ)	雲,輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
335	737	6.516	●2345(し-31/Ⅶ) ●2385(さ-31/Ⅶ)	輝,細粒	横ハケ→ナデ	-	-
335	738	6.516	◎19028(く-26/Ⅴ) ◎19030(く-26/Ⅴ) ◎19793(く-26/Ⅵ) ◎32950(く-26/Ⅶ下) ◎32952(く-26/Ⅶ下) ◎32964(く-26/Ⅶ下) ◎32964(く-26/Ⅶ下) ◎37923(く-26/Ⅶ) ●51176(く-26/Ⅶ) ●51182(く-25/Ⅶ) ●51369(く-24/Ⅶ)	砂粒,角	ケズリ→丁寧なナデ	ハケ→ナデ	砂粒多量

調整方法としては，内器面では，最終調整として木製工具によるハケ調整の後に，丁寧なナデ調整を行う土器が多数を占めることが挙げられる。最終調整としてミガキに近い丁寧なナデ調整を行う土器や，直前調整としてケズリ痕跡が観られる土器も少量見受けられることが挙げられる。

本類土器の胎土中鉱物としては，主に黒雲母や輝石などからなる土器が多数観られた。特に胎土中に黒雲母を多く含む土器が多く観られ，混和材として含ませた可能性の高いことが特記できることと，粗い粒度の鉱物が含まれる土器が多かったことが，特徴として挙げられる。

さて，出土分布図から本タイプ土器は主に，桐木調査区北側地区のうち，特に，桐木調査区Ｂ～Ｅ-８～13区周辺に部分的に出土していることが指摘できる(第336図・第274図～第278図参照)。

ここで注目できるのは，器形的特徴や施文的特徴，調整方法，本類土器の胎土中鉱物などの諸属性については，第４群土器第１類土器や第２類土器などの特徴と共通する点を数多く含んでおり，第６群土器第６類土器と第４群土器第１類土器や第２類土器などとの共時性を含めた関連性について，今後注意を要する土器群である。

第６群土器第７類土器(分類記号6.7，第341・342図747～759)

第６群土器第７類土器に属する土器を13点資料化した。

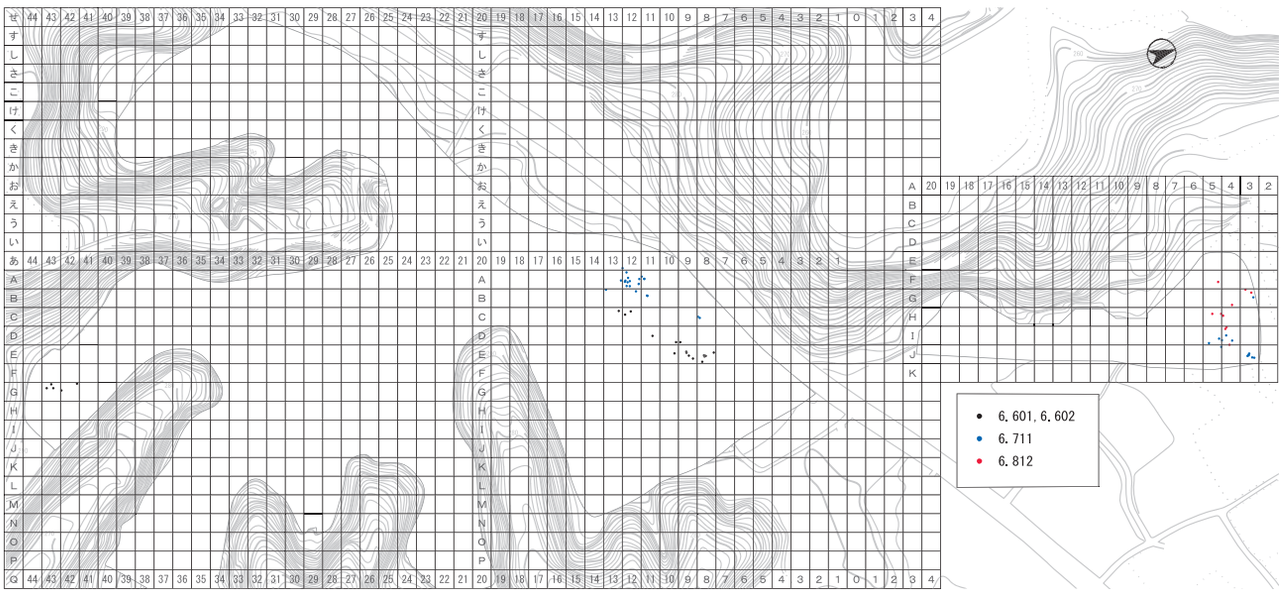
本類土器は，円筒形土器に押型文を施す土器を指標とする。また，文様構成などの施文的特徴を始め他の諸属性における分類は行うことができず，１種類に限られるという特徴が挙げられる。

器形的特徴としては，口唇端部に平坦面を形成し，口縁部が直行することが指摘できる。また，胴部最大径が胴部上端に位置し，胴部形態が直線的で，底部は平底となるのが特徴である。これらの特徴は，第３群土器第１類土器第３タイプ土器の特徴と共通するのが多いことを指摘できる。

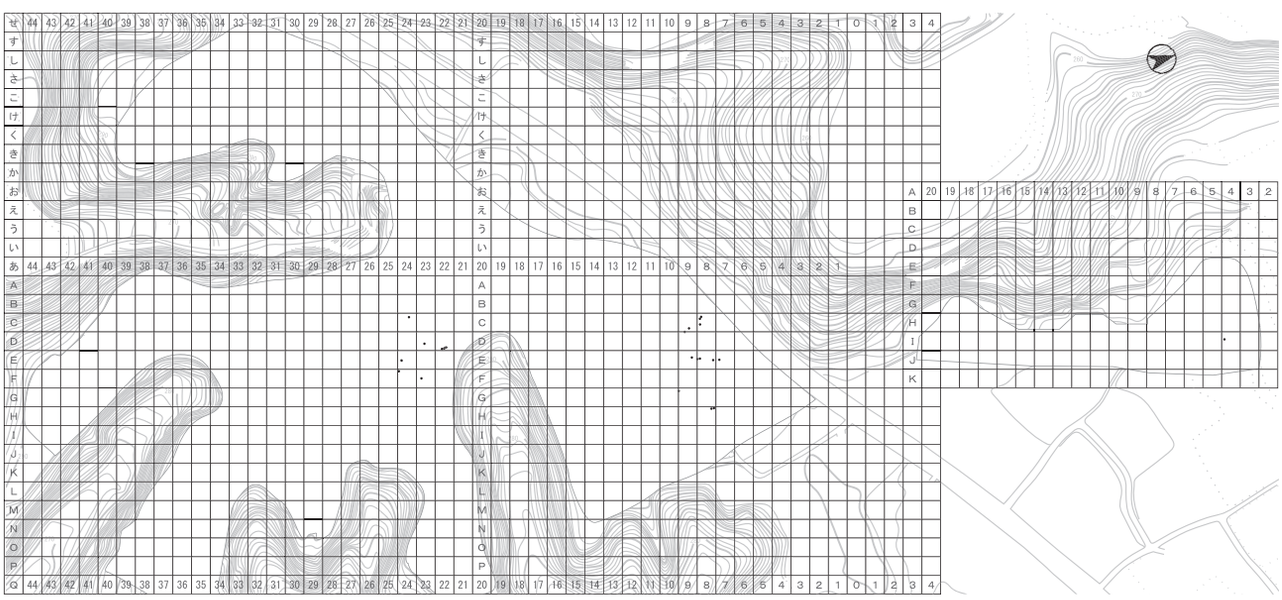
施文的特徴としては，口縁部文様帯から胴部下端部まで胴部文様帯の外面全面に，縦位方向あるいは斜位方向の格子目押型文を施すのが，本類細別の指標である。また口唇部文様帯と口縁部文様帯内面とは無紋帯となることが指摘できる。

調整方法としては，内器面では，口縁部から底部にかけて箆状工具によるケズリ調整を行った後に，木製工具による横位方向あるいは斜位方向のナデ調整あるいは丁寧なナデ調整を最終調整とする土器が多数を占めることが挙げられる。

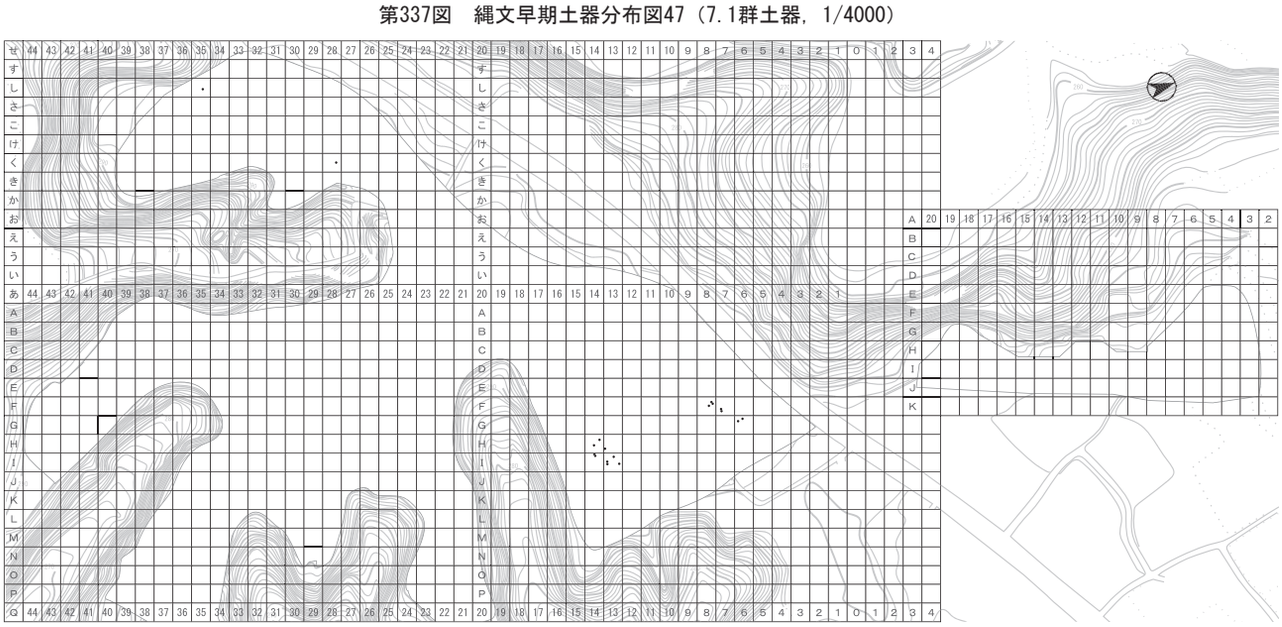
本類土器の胎土中鉱物としては，主に角閃石や輝石，雲母



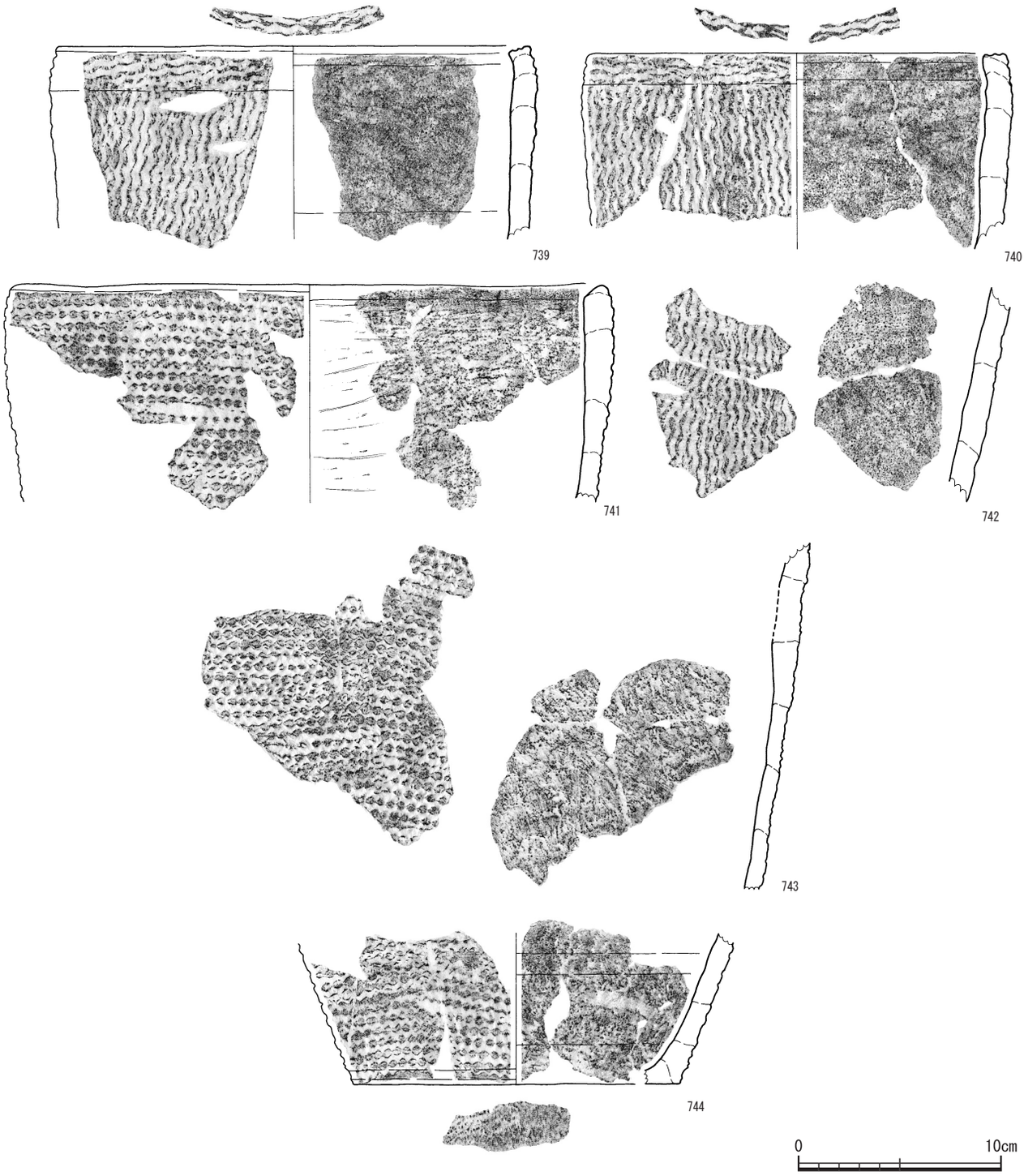
第336図　縄文早期土器分布図46（6.6群土器/6.7群土器/6.8群土器，1/4000）



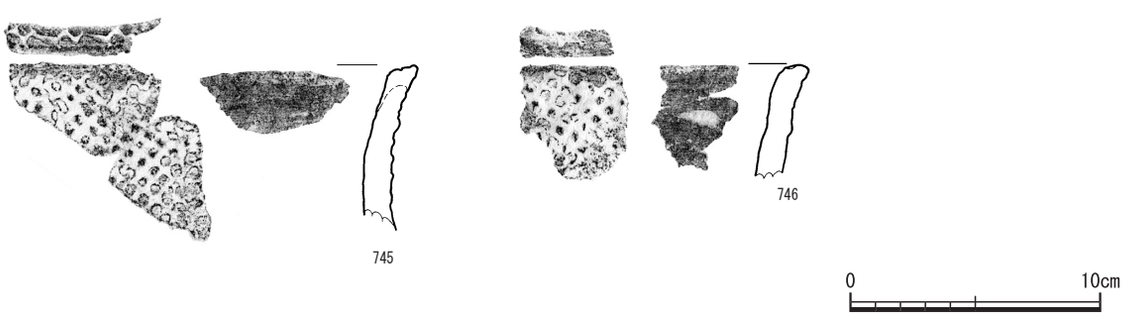
第337図　縄文早期土器分布図47（7.1群土器，1/4000）



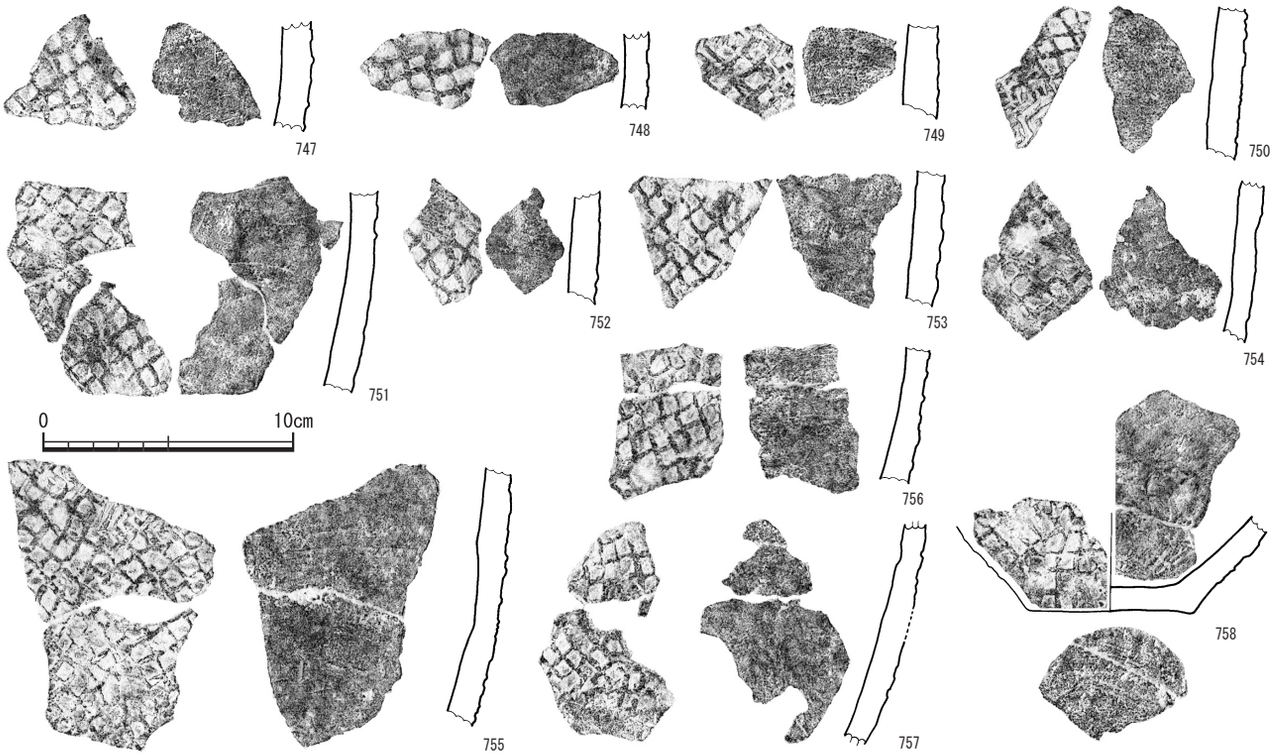
第338図　縄文早期土器分布図48（8群土器，1/4000）



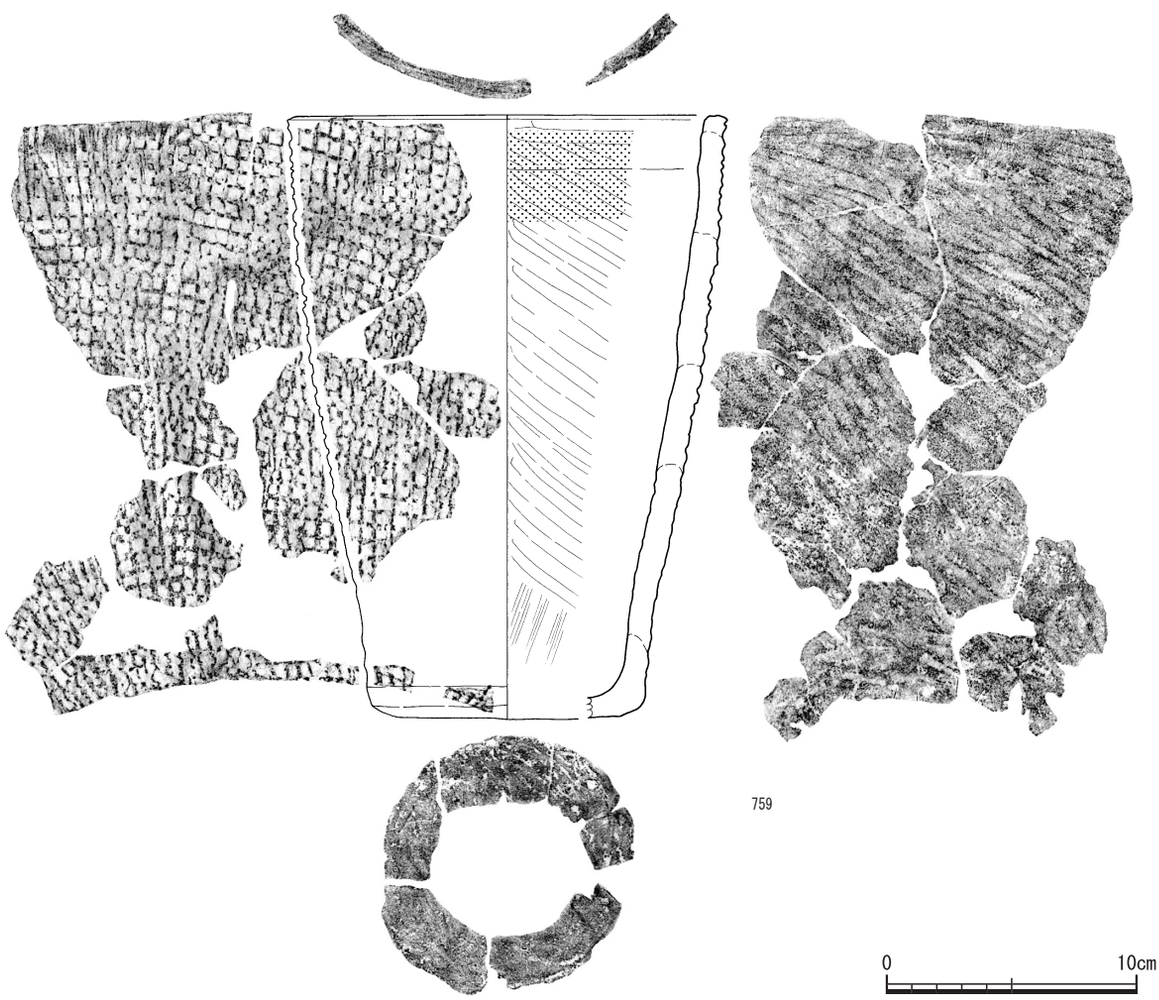
第339図　縄文早期土器実測図（112）（6.601群土器/6.602群土器/桐木調査区出土）



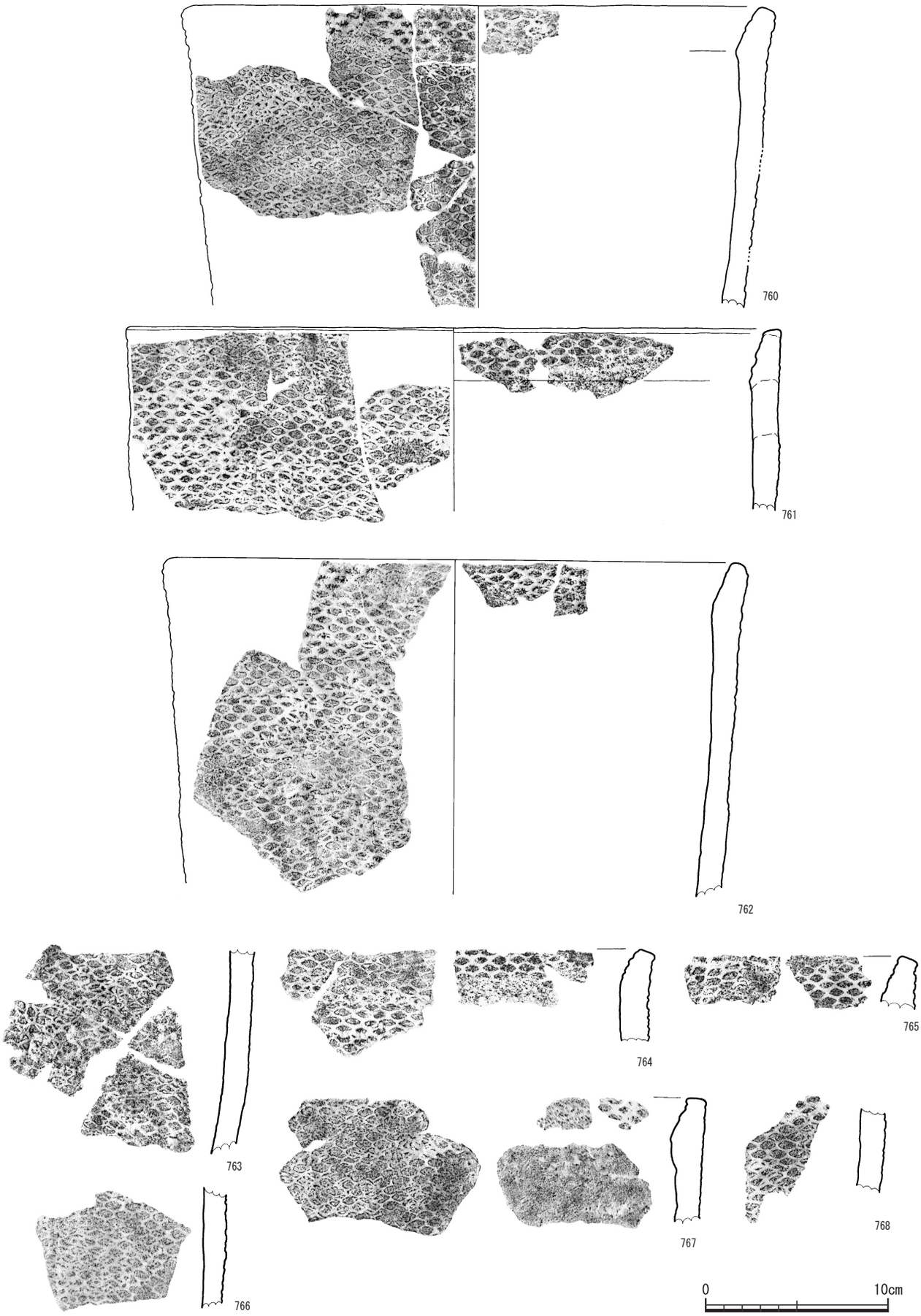
第340図　縄文早期土器実測図（113）（6.602群土器/耳取調査区出土）



第341図　縄文早期土器実測図（114）（6.711群土器/耳取調査区出土）



第342図　縄文早期土器実測図（115）（6.711群土器/桐木調査区出土）



第343図　縄文早期土器実測図（116）（6.812群土器/耳取調査区出土）